

履修コード	008801
科目名	イスラム教概論
担当者名	山崎 和美

講義の到達目標(ねらい) 現代の国際社会における平和的共存、異文化理解、宗教間対話といった諸問題を考える上で、13億人以上の信徒を持ち、世界中に広がっているイスラームに関する正しく客観的な理解は必要不可欠です。この講義では、イスラームの教義や世界観について知ると共に、ムスリム（イスラーム教徒）の人々の日常生活や文化など現実の姿を、偏見を持つことなく理解することを目的とします。イスラームと関わり深い中東の歴史、政治、社会、文化について基本的知識を持つことも目標です。

国際社会について考える場合、日本では欧米を中心に考えてしまう傾向があります。従って、中東、イスラーム諸国をはじめ、欧米以外のアジア・アフリカ諸国に関しても、興味関心を抱き、理解しようという姿勢を養うことを目指します。

国際社会に関するニュースに常に着目し、イスラーム諸国だけでなく世界全体に関する時事問題を読み解くための教養を身につけることも目的です。さらに、その問題に関して自らの見解を述べ、文章化する能力を養えば、と思います。

講義の内容／授業スケジュール 以下の内容の予定ですが、若干変更する場合があります。

前期
A:イスラーム世界全般（イスラーム世界とは？、文化、芸術の多様性、イスラームの歴史、イスラームの世界観、宗教儀礼と日常生活、イスラーム復興運動とは？）
B:イスラームの教義（クルアーンとハディース、イスラーム法（シャリーア）とイスラーム法学者、六信五行、イスラームの各宗派、イスラーム神秘主義とスーフィー、聖者と聖者廟参詣、女性と婚姻、ヴェール）

後期
C:イラン社会（「近代化」の時代、イラン革命と現代、イラン型大衆運動への女性参加と教育、映画に見る女性と若者）
D:国際関係（パレスティナ、ヨルダンとレバノン、チェチェン、アフガニスタン、イラク）

準備学習 下記記載の参考書4冊（『面白いほどよくわかるイスラーム』『現代イラン 神の国の変貌』『シーア派 台頭するイスラーム少数派』『コーカサス 国際関係の十字路』）を読んだ上で授業に参加すれば、授業内容をより深く理解できます。

履修上の留意点 日頃から、新聞・雑誌、インターネット、海外テレビ・ラジオのニュースなどに触れ、イスラーム諸国について関心を持つように心がけてください。

- 成績評価の方法**
- ① 文章執筆の訓練のため、授業に関するコメントを記して下さい。
短くてよいので、授業で何を学んだか、そのことについて自分はどうか考えるか、論述して下さい。
 - ② 夏休み明けに、前期の内容に関するレポートを提出してもらいます。
上記、「講義の内容」のA（イスラーム世界全般）から1項目、B（イスラームの教義）から1項目を選び（合わせて2つ解答）、授業で学んだことを整理した上で、自分の考えを論述して下さい。
 - ③ 後期の最後に、学期末試験を実施します。論述試験です。
上記、「講義の内容」のC（イラン社会）から1項目、D（国際関係）から1項目を選び（合わせて2つ解答）、授業で学んだことを整理した上で、自分の考えを論述して下さい。
 - ④ コメントと出席率、レポート、期末試験から、総合的に評価します。

教科書／テキスト 教科書は指定しません。

参考書 教科書は指定せず、授業中に必要な資料、および参考文献表を適時配布します。なるべく参考文献を読んだ上で授業に臨むようにして下さい。
特に次の4冊については、ぜひ読んでください。

塩尻和子監修・青柳かおる著『面白いほどよくわかるイスラーム』日本文芸社、2007年
桜井啓子『現代イラン 神の国の変貌』岩波書店、2001年
桜井啓子『シーア派 台頭するイスラーム少数派』中央公論新社、2006年
廣瀬陽子『コーカサス 国際関係の十字路』集英社、2008年

履修コード	004401
科目名	インド哲学史
担当者名	金沢 篤

講義の到達目標(ねらい) 仏教を産んだインドのヴェーダ体制の内実を探り、宗教・哲学の変遷を概観する。

講義の内容／授業スケジュール 定評ある以下の教材に沿って、ヴェーダ時代より中世に到るまでの主だったトピックを通史的に概説する。併せて、インド哲学研究の方法論・問題点なども検討する。
◎インド哲学史・序論（1～3） インド哲学史とは？ インド哲学研究の方法論
◎ヒンドゥー教と仏教（4～15） ヒンドゥー教（ヴェーダ体制）の成立 ヒンドゥー教（ダルマと業理論）の概要 仏教の成立：仏教出現の意義
◎ヒンドゥー教（ヴェーダ体制）の変容と展開（16～20） 仏教哲学とバラモン哲学
◎インド哲学各論（21～） 正統バラモン哲学諸派
◎インド哲学・結び

履修上の留意点 日頃よりインドに関心の目を向け、主体的に常にながしかの問題意識をもって授業に参加することが望ましい。

成績評価の方法 数回のレポートと年度末の筆記試験など。

教科書／テキスト 早島鏡正他著『インド思想史』（東京大学出版会）

参考書 講義の中で適宜紹介する。

履修コード	001701
科目名	インド仏教史
担当者名	池田 練太郎

講義の到達目標(ねらい) インド仏教史を、単に仏教の歴史だけに限定して扱うことはできない。それは、思想や文化などさまざま面と深く関連しつつ展開したものである。しかし、仏教学部には、インド仏教の思想史や文化史に関する科目も開講されている。それゆえ本講義では、仏教の多様な側面も視野に入れながら、可能な限り歴史的展開に主眼を置いて解説し、インドにおける仏教変遷の流れを把握することを目指したい。

講義の内容／授業スケジュール 講義は、おおむね以下のように進める予定である。
第1～2回：仏教成立以前のインド、第3～5回：ゴータマ・ブッダと仏教興起、第6～8回：初期の仏教教団、第9～12回：教団の分裂と部派の出現、第13～15回：マウリヤ王朝時代の仏教、第16～18回：部派仏教の展開、第19～21回：大乗仏教の興起、第22～24回：グプタ朝時代の仏教、第25～27回：グプタ朝分裂以後の仏教、第28回：パーラ王朝と密教、第29回：仏教の衰退、第30回：近代インドにおける仏教の復興

準備学習 授業を通して得た知識を、歴史の流れ全体の中に位置づけながら理解するよう、特に復習に力を入れること。

履修上の留意点 インド仏教の歴史に重点を置きつつ、仏教の思想や文化等さまざまな側面にも目を向けて、「仏教」を総合的にとらえる姿勢で臨んでほしい。

成績評価の方法 基本的には年度末におこなう筆記試験によって評価する。

教科書／テキスト 佐々木教悟・高崎直道他著『仏教史概説 インド篇』（平楽寺書店）2,100円、ISBN 4-8313-0114-0

参考書 平川彰著『インド仏教史』上・下（春秋社）各2,940円、ISBN 4-393-11811-1, 4-393-11812-X

履修コード	004201
科目名	インド仏教思想史
担当者名	松本 史朗

講義の到達目標(ねらい) インド仏教の思想的展開を概説することによって、仏教思想の特質を明らかにするのが、本講義のねらいである。

講義の内容／授業スケジュール 講義の内容・スケジュールは、ほぼ次の通りである。（1～4）仏教成立以前のインド思想（ヴェーダ・ウパニシャッド・ジャイナ教）、（5～12）原始仏教の思想（縁起説・四諦説・無我説等）、（13）部派仏教のアビダルマ哲学、（14～21）大乗経典の思想（『般若経』『華嚴経』『法華経』『涅槃経』等の思想）、（22）中観派の空思想、（23～26）如来蔵思想、（27）瑜伽行派の唯識思想、（28）仏教論理学の思想、（29/30）チベット仏教への導入

準備学習 梵語・漢文の学習が望ましい。

履修上の留意点 高度に思想的內容について講義し、厳正な試験を行なうので、安易な気持ちで履修することは、避けられたい。初回の授業には必ず出席すること。

成績評価の方法 年度末の試験により、成績を評価する。

教科書／テキスト 早島鏡正他著『インド思想史』（東京大学出版会）3600円 ISBN 978-4-13-012015-9

履修コード	003801 003802
科目名	インド仏教文化史
担当者名	金沢 篤

講義の到達目標(ねらい) インド生まれの仏教を、広範で多岐多彩なインド文化の史的展望の中でとらえてみたい。

講義の内容／授業スケジュール 神や人間などが織りなす奇想天外なインド的物語世界の解説を皮切りに、仏教の出現と展開と衰頽にまつわる文化的トピックを論究する。
◎インド仏教文化史とは？（1～3）日本人、日本文化と仏教
◎文化的側面より見たインド仏教とその展開（4～8）他宗教と仏教の比較の視点から
◎仏教の起源と仏教出現の背景（9～15）仏教哲学の成立 ヒンドゥー教と仏教 仏教の独自性
◎仏教の変容と展開（16～22）哲学から宗教へ 仏教哲学の革新と宗教理論の確立
◎インド仏教文化史・むすび（23～）

履修上の留意点 仏教や古今のインド文化に熱い関心を持つ学生諸君の主体的取り組みを期待する。

成績評価の方法 年度末試験などで総合的に判断する。

教科書／テキスト 渡辺照宏著『仏教（第二版）』（岩波新書）740円

参考書 教場で適宜紹介する。

履修コード	010501 010502
科目名	演習I 演習II
担当者名	飯塚 大展

講義の到達目標(ねらい) 一休宗純の偈頌集である『狂雲集』を読解する。

講義の内容／授業スケジュール 一休宗純の生涯（『東海一休和尚年譜』の読解、1～10）、『狂雲集』概説（11～15）、『狂雲集』の読解（16～30）

履修上の留意点 ゼミでの発表を重視する。

成績評価の方法 あらかじめ『狂雲集』の報告担当者を決め、その報告に基づいて討議する。その発表及びゼミでの問題提起等を以て評価する。

教科書／テキスト 教科書は用いない。テキストは適宜配布する。

参考書 参考書は概説の際に提示する。

履修コード	011841 011842
科目名	演習I 演習II
担当者名	池上 光洋

講義の到達目標(ねらい) 道元禅師の修証観を明らかにすべく『普勸坐禅儀』を講読する。同書についてはすでに「宗典」や「坐禅I」などで講義をうけ既知のものであろう。受講生には自分の信念や思い込みによらず、また各種の現代語訳や概説書にも頼らずに、原典を虚心にかつ丹念に読み込み、自らの力で理解してほしい。

講義の内容／授業スケジュール まず自主的に調査・研究を進めるための方法を教示した後、分担を割りふり読み進めていく。
第1～3回：導入
第4～8回：『禅苑清規』「坐禅儀」講読
第9～13回：「普勸坐禅儀撰述由来」講読
第14～30回：自筆本『普勸坐禅儀』講読

成績評価の方法 演習科目なので平常点により評価する。

教科書／テキスト プリントを配布する。

参考書 伊藤秀憲(編)『道元思想大系8・思想篇2—道元と坐禅—』(同朋舎出版 1995)、鏡島元隆『道元禅師』(春秋社 1997)。
石井修道『道元禅師—正法眼蔵行持に学ぶ—』(禅文化研究所 2007)、石井修道『中国禅宗史話—真字「正法眼蔵」に学ぶ—』(禅文化研究所 1992)、小川隆『語録のこぼれ—唐代の禅—』(禅文化研究所 2007)、小川隆『臨済録—禅の語録とことばと思想—』(岩波書店 2008)、小川隆『続・語録のこぼれ—宋代の禅—』(禅文化研究所 2010)。
その他、演習中に随時紹介する。

その他 受講生には必修である「卒業論文」の作成を目標に、各自、課題と自覚をもって授業に臨んでもらいたい。なお3年次の夏休みあけに論文作成のための予備的なレポートを、春休みあけにはより具体的な報告書を提出してもらう。4年生には卒業論文の進捗状況報告のため、夏休みあけに前期レポートを、後期の終わりには1年間の成果をゼミで発表してもらう予定である。

履修コード	009101 009102
科目名	演習I 演習II
担当者名	池田 練太郎

講義の到達目標(ねらい) 古来、仏教における入門的な論書として重んじられてきた世親(Vasubandhu)の著作『阿毘達磨俱舍論』(Abhidharmakosabhasya)を、サンスクリット語の原典と玄奘による漢訳を用いて講読する。この講読を通して、仏教の重要な術語や概念を理解するとともに、仏典を正確に読解する力を身につけ、仏教に関わる諸問題について自ら考察する姿勢を養いたい。

講義の内容／授業スケジュール 前期には玄奘訳『俱舍論』を中心に講読し、後期にはサンスクリット語テキストによって同書を講読する。

準備学習 講読箇所に関連する問題についてできる限り広く調べる。

履修上の留意点 当番制で和訳し、内容を解説してもらうが、当たっていない者も予習をして授業に臨んでほしい。なお、関連する問題について発表してもらうことも考えている。

成績評価の方法 授業における平常点によって評価する。

教科書／テキスト テキストは最初の授業のさいに説明する。

参考書 必要に応じて適宜紹介する。

履修コード	010001 010002
科目名	演習I 演習II
担当者名	池田 魯参

講義の到達目標(ねらい) 天台教学の教理を深く理解し、隣接の各宗の教学理解の応用力を養う。漢文仏典の読解力を身に着ける。

講義の内容／授業スケジュール 『摩訶止観』を読む。演習方式で当番を決め順番に担当分を解説し発表してもらう。最終章「諸見境」の章段を読み、正しい仏教の思想とは何かを考察する。

履修上の留意点 当番に当たった人は、難解な語句を厳密に調べ、それぞれの文で何をいっているのか理解し、自分自身の現実に重ねてその一段の文がどういうことをいおうとしているのか、考える習慣を身につけて欲しい。疑問点を出し質問を積極的にして欲しい。

成績評価の方法 演習当番の予習準備・発表態度、授業への出席状況、課題レポート等を合わせて平常点評価。定期試験ナシ。

教科書／テキスト コピーを渡す。

参考書 講義の中で逐次指示する。

履修コード	011501 011502
科目名	演習I 演習II
担当者名	石井 清純

講義の到達目標(ねらい) 近年、インターネットの発達と漢字表記の発展により、仏教・禅の研究においてもコンピュータネットワークの重要性が飛躍的に増大した。それは具体的には仏教典籍のオンライン供給という形として現れている。
本演習は、前期中にコンピュータオペレーションの基礎を学び、後期には、それを利用して、ネット上の仏教情報の検索、収集、分析方法の演習を行う。

講義の内容／授業スケジュール まず、コンピュータ機器に関する基礎知識と基本操作を身につけ、オンライン資料の使用法に慣れることを目的に授業を進める。その後、仏教関係の課題について関連情報を検索・収集し、結果をコンピュータを用いて発表してもらう。

(1)オペレーティングシステムとアプリケーション、(2~4)ワープロソフトと文書の作成、(3)データベースのいろいろ、(4)表計算と関数、(5)プレゼンテーションソフトの活用法、(6~8)第1課題作成(自己紹介文の作成)、(9~12)第1課題発表、(13~17)第2課題作成(仏教・禅一般)、(17~21)第2課題発表、(22~26)第3課題作成(道元関係)、(27~30)第3課題発表。

履修上の留意点 講義やプレゼンテーションは、すべてコンピュータを用いるので、パソコンの基本操作を必ず身につけてもらわなければならない。できれば、個人で自由に使用できるパソコンを保有していることが望ましい。

成績評価の方法 出席および演習中の発表内容をもって評価する。

参考書 講義中に適宜指示する。

その他 平成23年度は、新規募集を行わない。

履修コード	009701 009702
科目名	演習I 演習II
担当者名	石井 修道

講義の到達目標(ねらい) 演習のテキストとして禅の究明に欠かせない『景德伝燈録』を選んだ。1004年に完成した『景德伝燈録』は、それ以前の禅とは何かを知る上でも必読の本であるし、それ以降の禅を学ぶ上には欠くべからざる指針の本である。また、道元禅師が暗記するまで読まれたことは間違いないので、道元禅師の研究をする上でも必読の本である。

講義の内容／授業スケジュール 『景德伝燈録』30巻は、世に「一千七百の公案」と呼ばれる。この演習はその一つ一つを丁寧に読む。なお今年度は巻14以降の石頭系の著名な禅者を読む。

履修上の留意点 元版の序文によると、367,917字で刻まれたという。それを編集し、書写し、さらに一字一字を刻した人の苦勞を思う時、まず我々はその一字一字を辞典を使用して確かめることから出発し、意味を考え、そして意図を探りたいものである。一年間で学べる分量はわずかであるが、禅者一人一人を禅宗史の上でどのように学問的に追求したらいかがを学んで、他の研究に応用できるように身につくまでまなびたい。
できる人は中国語の発音まで調べてくること。

成績評価の方法 演習は当番が担当する。また、その年度内に読んだ禅者の中から興味ある人を一人選び、その伝記と思想の特色をレポートに書いて最終授業の時に提出する。400字詰10枚程度(ワープロ可)。

教科書／テキスト 台湾の版元より取り寄せ(1500円程度)

参考書 入矢義高監修『景德伝燈録三』『同 四』(禅文化研究所)各8,500円
入矢義高監修『禅語辞典』(思文閣出版)9,785円
石井修道『中国禅宗史話』(禅文化研究所)3,675円

履修コード	009201 009202
科目名	演習I 演習II
担当者名	岩永 正晴

講義の到達目標(ねらい) 江戸時代中期の曹洞宗僧侶が著わした『正法眼蔵』注釈書を対象として演習を行う。各注釈書の背景にある教養や、注釈態度・目的などの調査分析を通して古人の参究の成果を学ぶと共に、演習参加者自身の研究に必要な知識や方法を修得して貰いたい。

講義の内容／授業スケジュール 今年度も前年度に引き続き、『正法眼蔵』参究の初学者がまず始めに参照すべき書として伝承されてきた『正法眼蔵問解』(斧山玄トツ述)を中心に演習を行う。
○第1回 授業の概要の説明
○第2回~第3回 『正法眼蔵』及び『正法眼蔵問解』の解題。参考書等の説明。
○第4回~第30回 履修者による演習。

履修上の留意点 大学での学習・研究の中でも、演習が担う役割は極めて大きいと考えるので、積極的に参加して貰いたい。また我々は仏教を学ぶのであるから、私も含めた参加者全員が互いに協力し励まし合って学んで行きたい。

成績評価の方法 平常の参加態度と、学年末提出のレポートで評価する。

教科書／テキスト 『正法眼蔵註解全書』所収本の必要箇所をコピーして配布する。

参考書 『永平正法眼蔵鬼書大成』17(大修館書店)・鏡島元隆『道元禅師とその門流』(誠信書房)・河村孝道『正法眼蔵の成立史的研究』(春秋社)など。但し以上は入手が困難であろうから、図書館を活用して貰いたい。その他は随時紹介する。

履修コード	010201 010202
科目名	演習I 演習II
担当者名	奥野 光賢

講義の到達目標(ねらい) 経自らが「諸経の王」と称しているように、あまたある大乘經典の中で東アジア世界に最も流布した經典が『法華経』である。本演習では鳩摩羅什訳『妙法蓮華経』を中国・日本で著された各種法華経注釈書にも目を配りながら講読し、法華思想の考究に及びたい。

講義の内容／授業スケジュール 開講から数回程度は予備知識確認のため概説的授業を行なう。以後、直ちに講読に入る。今年度は「観世音菩薩普門品」を読む予定。今年は特に中国で撰述された注釈書を参照しながら講読し、その思想的意味を考えたい。

履修上の留意点 予習をしっかりとなし、授業への主体的参加を望みたい。

成績評価の方法 純然たる演習科目なので平常点のみによって評価する。

教科書／テキスト 岩波文庫本『法華経』全3冊を教科書として使用するの各自用意すること。その他の授業で用いる注釈書は授業において適宜配布する。

参考書 参考書はあまたある。それらは授業において適宜指示するが、さしあたっては次の2書をあげておく。①田村芳朗『法華経』(中公新書)、②菅野博史『法華経入門』(岩波新書)

履修コード	010401 010402
科目名	演習I 演習II
担当者名	片山 一良

講義の到達目標(ねらい)	釈尊によって説かれた原初の教えを「原始仏教」と呼ぶ。その基本的な教えをパーリ仏典（原始仏教聖典）によって正しく理解し、「大乘仏教」の根本的思想を把握するための足がかりを築きたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	聖典語とされるパーリ語で書かれた仏典を読む。詩（偈）と散文からなる『如是語（経）』（Itivuttaka）を扱い、五蘊・縁起・四諦・中道の教えについて考えたい。また、前期・後期に各一回、各自の研究課題に基づく発表の機会を設けたい。
履修上の留意点	受講者はパーリ語初級程度の知識をそなえていることが望まれる。
成績評価の方法	平常点による。
教科書／テキスト	PTS本（Itivuttaka）を使用。コピー配布。
参考書	南伝大蔵経第23巻、片山一良『ブッダのこぼれ パーリ仏典入門』（大法輪閣）。
その他	授業は講読、討論を主とする。

履修コード	011201 011202
科目名	演習I 演習II
担当者名	金沢 篤

講義の到達目標(ねらい)	仏教の成立・展開にも大きく関わった、インドの思想史・文化史的背景を伺う種々文献資料や、いわゆる正統パラモン哲学の基礎的な文献資料を原典で読む。
講義の内容／ 授業スケジュール	決定したテキストを順を追って講読する。
履修上の留意点	テキストなど詳しいことは、教場にて適宜指示するが、受講者は、サンスクリットの初級程度の知識を有していることが望ましい。また、自分の個人的学問的関心を常時鋭化し、文献渉猟と言葉によるプレゼンテーション技術の習得を心がけて欲しい。
成績評価の方法	成績評価は、出席点を含む平常点をもってする。

履修コード	011871 011872
科目名	演習I 演習II
担当者名	木村 誠司

講義の到達目標(ねらい)	仏教論理学的作品に触れる。『真理綱要』Tattvasamgrahaを主要テキストとする。本書は、8世紀、シャーンタラクシタ、カマラシーラという高名なインド人学僧により著された。内容は多岐に渡る。この種の著作を読むことは、インドやチベットの仏教研究を目指す者には欠かせない。講義は、基本的にテキストの読解である。原典を読む訓練をしていきたい。私が下訳を作り、それに基づいて、講義を進める。受講者は、出来るだけ、自分でも、訳してみたい。ペースは非常にゆっくりしたものにする。それ故、初心者にも負担は少ないと予想している。今年度は、時間論をテーマとする「三時の考察」章を読む予定にしているが、受講者との相談で変更することもある。梵語原典、チベット語訳、現代語訳等出来るだけ多くの資料を用いる。適宜、議論の発端となった『俱舍論』等の関連文献も参照したい。演習はあくまでも、テキストの購読と討論が主眼であるが、インド・チベットのテキストを読解するには、語学力の習得が必須である。受講者が実際にテキストを扱えるようになるまで、ある程度の猶予期間を設けるつもりである。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回～第15回「仏教論理学とは何か？」をこれまでの研究史を含めて、検討する。実際に、『真理綱要』の各章を管見しながら、具体的に仏教論理学の研究動向を探っていく。この間にテキストを読解する訓練なども試す。第16回～第30回受講者と相談の上、テキストを選定し、実際に読んでみる。
準備学習	特にないが、勿論、サンスクリット語やチベット語の知識があれば、ベターである。
履修上の留意点	特にない。
成績評価の方法	レポート等を課題とし、それを含めた平常点で評価する。
教科書／テキスト	すべてコピーで配布する。

履修コード	010301 010302
科目名	演習I 演習II
担当者名	熊本 英人

講義の到達目標(ねらい)	今日の仏教の様相は、明治維新から始まったといっても過言ではない。近代における仏教の諸問題を曹洞宗の場合を中心にみていく。特に、教団を視点においてその変容や機能を文献から読み取る。あわせて、一宗の宗学がどのように展開していったかにも触れ、教義と現実との関係について検討する。
講義の内容／ 授業スケジュール	明治維新を境に、仏教とそれを取り巻く環境は大きく変わった。近世の仏教批判、明治維新期の混乱と、その後の僧侶や寺院のあり方の変化、そして、近現代において、仏教はどのように社会と関わってきたか。禅はどのようにとらえられてきたか。また、禅宗は何を伝えようとしたか。このような視点を前提として、今年度は、道元の『正法眼蔵』を、曹洞宗はどう扱い、一般人はどう読んだか、曹洞宗僧侶や仏教研究者が道元禅を読み解いた作品・研究を分析する。
履修上の留意点	適宜、小レポートを課す。
成績評価の方法	平常点及びレポート。
教科書／テキスト	テキストおよび参考資料は、必要に応じてコピーで配布する。
参考書	演習の中で随時紹介する。
その他	演習IIについては、卒業論文の指導にも配慮して講座を進める。

履修コード	011401 011402
科目名	演習I 演習II
担当者名	佐藤 秀孝

講義の到達目標(ねらい)	日本禅宗の草創期の禅僧、とくに鎌倉・南北朝時代に活躍した道元禅師から瑩山禅師やその弟子たちに至る初期曹洞宗教団の祖師方の伝記資料その他を読み進めたい。具体的には江戸時代の僧伝や禅宗灯史が成立する以前の、より素朴な中世撰述資料などをテキストとして演習する。演習を通して資料の読解力を養うだけでなく、禅僧たちの生きざまを通して彼らが目指した禅宗叢林のありかたなど、中世禅宗の息吹きを感じてもらいたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	はじめに初期曹洞宗に関して、歴史的な概要や現存する史資料について口述し、その後、特定の伝記資料について演習する。その際、学生が輪番形式で割り当てられた箇所について書き下し文と語句の説明と訳文を作って資料を発表してもらおう。
履修上の留意点	資料の多くが漢文ないし漢字仮名交じり文で表現されており、しかも独特の禅宗用語や中世用語が用いられていることから、漢文（とくに禅宗漢文）や日本禅宗史の素養を深めておいて欲しい。
成績評価の方法	担当した演習箇所の内容と出席日数を換算して成績を評価するが、授業時間内の態度や意気込みなども総合的に加味したい。
教科書／テキスト	特定の教科書は使用しない。『三大尊行状記』や古写本『建漸記』などの内容を、『曹洞宗全書』『史伝下』や『統曹洞宗全書』『寺誌・史伝』その他当該資料よりプリントして配布する。
参考書	大久保道舟『道元禅師伝の研究』や竹内道雄『道元』（人物叢書）など道元禅師に関する研究書、東隆真『瑩山禅師の研究』など瑩山禅師に関する研究書。『永平寺史』など初期の曹洞宗に関する研究書。
その他	演習では毎時間、担当者を割り当てて調べてきた成果を発表してもらい、それを教員が改めて内容を検討していく。

履修コード	011851 011852
科目名	演習I 演習II
担当者名	角田 泰隆

講義の到達目標(ねらい)	道元禅師の歴史的研究（道元禅師の伝記並びにその時代の諸研究）、書誌〔文献〕的研究（著作の成立等に関する研究）、思想的研究（著作の内容に関する研究）の研究方法を身につける。
講義の内容／ 授業スケジュール	最初に、『正法眼蔵』の研究手法について概説し（1～3）、その後、『正法眼蔵』『身心学道』巻の研究をする。前期は、図書館を利用した自主研究の時間とし、研究ノートを作成してもらおう（4～15）。この間は、図書館あるいは研究室にて個々に指導する。後期（16～30）は、演習形式で『身心学道』巻を読む。
履修上の留意点	研究ノートの作成方法については、授業にて詳細を説明するが、用語の意味調べ、出典調べ、訳文の作成等、根気よく研究することが必要となる。また、図書館での自主研究では、静粛に学習するよう特に留意していただきたい。
成績評価の方法	研究ノートを提出していただき、それによって評価する。
教科書／テキスト	なし
参考書	授業において紹介する。

履修コード	011831 011832
科目名	演習I 演習II
担当者名	程 正

講義の到達目標(ねらい)	この講義は、中国初期禅宗史を研究するための基礎的な知識と技能の習得をそのねらいとする。本年度は、黄檗希運述『伝心法要』の輪読を行う予定である。本書は居士裴休が黄檗希運に842年と848年の2回にわたって問法した内容を筆録整理したものであり、中国禅宗、特に臨済禅の基礎を築いた黄檗の心要を伝えたものとして、後世に愛読された。このテキストを読むことによって、五家の時代に入る中国禅宗における禅思想の変遷の一端を明らかにしていきたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	具体的には、入矢義高氏の校訂したテキストをワープロに起こし、書き下し、引用に関しては出典を探し、内容を理解するという作業を繰り返す予定である。最初の3、4回は、『伝法宝紀』に関する従来の研究成果などの紹介に当て、その後は、テキストを適当な分量に区切って参加者全員に配分し、参加者は輪番でそれぞれの担当箇所について資料を作成し発表を行う予定である。
履修上の留意点	それぞれの担当する内容については、発表資料の作成などの予習が不可欠である。出席点を評価に入れるので、欠席しないこと。
成績評価の方法	授業における発表、出席点により評価。但し、出席や発表の状況によっては、個別に課題レポートを課すこともあり得る。
教科書／テキスト	入矢義高『伝心法要・宛陵録』（禅の語録8）（筑摩書房、1969年）
参考書	適宜に紹介する。

履修コード	010601 010602
科目名	演習I 演習II
担当者名	永井 政之

講義の到達目標(ねらい)	中国禅宗を「立体的」に捉えようと苦心しています。そのためには、さまざまな史料を多角的に読むことが必要だと考えていますし、辛抱よく訓練すれば、必ずや歴史に生きた禅僧のナマの姿が分ってくると信じています。そんな問題意識のもと、ここ数年と同じように北宋を代表する禅者の一人、慧洪(1071~1128)の著わした『林間録』を読みます。北宋を代表する禅者の一人である慧洪は、その生涯において4度の下獄を経験するほどの波乱の人生を送ります。一方、その著作『石門文学禅』は「五山文学」の世界に大きな影響をあたえました。かくしてその評価はさまざまとなりますが、彼が「あるべき教え」と「人」を模索し続けたことは疑いありません。その集約が『林間録』にあります。時には皮肉を込め、時には慨嘆しつつ語られる北宋禅の世界は、「灯史」に限定されない生き生きした様相そのものを語っているのではないのでしょうか。
講義の内容／授業スケジュール	(1~3)中国禅宗史の概説(3~)毎時間、当番が発表用のペーパー(『林間録』を訓読し注を付したものを)を配布し、読みすすめます。
履修上の留意点	それぞれ担当する内容については、発表資料の作成などの予習は不可欠です。また自分の担当ではなくても、「自分だったらこう読む」と予習してください。
成績評価の方法	評価は当番に当たった際の発表や、ふだんの履修態度を総合的に評価します。
教科書／テキスト	テキストは江戸時代の木版本をコピーして使用します。返り点や送りがなも付されているので、比較的読みやすいと思います。
参考書	参考書については授業中に適宜指示しますが「漢和辞典」は必ず用意してください。

履修コード	010101 010102
科目名	演習I 演習II
担当者名	長谷部 八朗

講義の到達目標(ねらい)	仏教をはじめとしたさまざまな宗教の儀礼分析を中心に行なう。できるだけ具体的な実践例を取り上げ、教えや文化的背景などと関連づけて儀礼の意味や役割・機能を探る。
講義の内容／授業スケジュール	上記に関する文献や調査資料をもとに履修者に研究テーマを決めさせ、調べた内容を順次発表してもらう。
履修上の留意点	発表を中心に進めるので、履修者は十分な準備と発表の工夫を凝らして臨んでほしい。
成績評価の方法	発表内容や提出物、出席状況などを総合して評価する。
参考書	授業中に適宜紹介する。

履修コード	011801 011802
科目名	演習I 演習II
担当者名	晴山 俊英

講義の到達目標(ねらい)	まずは基礎的な辞書類の選び方・使い方を習得し、自らの手で疑問を解決できるようにする。最終的には受け身の学問から攻めの学問へ転ぜられたい。
講義の内容／授業スケジュール	曹洞宗禅戒諸資料を読む。いわゆる仏教全体の中において禅宗の戒律思想は頗る特異で、教家のそれと比較し難いとされる。しかし幸いにも江戸期の先学が禅戒について詳細に議論をする中で随所に教学的考察を試みている。この点を念頭に置きつつ、本演習では道元禅師ないし曹洞宗における戒律思想を探るべく曹洞宗関係を中心に諸資料を参究していく。
履修上の留意点	必ず YeStudy に登録すること (Pass は授業で告知)。その際に、実効性のあるメールアドレスで登録、もしくは転送するようにしておくこと。毎時間、発表者1人か2人、質問者3人~6人程度を指名する。4年次生には、合宿にて卒業論文中間報告をして貰う。
成績評価の方法	合宿を含んだ平常点によって評価する。
教科書／テキスト	適宜指示する。
その他	夏季休業中にゼミ合宿を行なう。不参加の者には個別に課題を提出する。その他、演習説明会(個人)で配布した資料に授業の進め方や注意事項が記載してあるので、目を通しておくこと。

履修コード	011861 011862
科目名	演習I 演習II
担当者名	藤井 淳

講義の到達目標(ねらい)	その後の日本仏教の流れを決定づけた弘法大師空海『弁頭密二教論』をインド・中国仏教との関係を踏まえながら読解します。学生の関心に合わせて奈良時代・平安初期の南都六宗の仏書や法然上人『選択本願念仏集』を読解し、『弁頭密二教論』との影響関係について考察します。
講義の内容／授業スケジュール	演習は皆さんが今まで先生から知識を一方的に受けてきた授業と異なり、自ら疑問を持ち、それをさまざまな資料(本・ネットなど)によって調べ、それでも分からないことがあればどう解決すればよいのか(どの能力を身につけるのが必要か、誰に聞けばよいのか、何を調べればよいのか)を考える授業です。これを実践して身につけていくことで、将来問題に出会ったときに自ら解決することができるようになります。五月ぐらいいまでは演習を進める上で必要となる準備のために、テキストの読み方や資料の調べ方について指導します。その後、皆さんが調べたことを発表してもらい、それを私が指導します。先に発表する先輩を見本にしながら、全員に順番に発表してもらいます。
準備学習	弘法大師空海についてほとんど知識のない場合は、一つのきっかけとして『空海の風景』(上)(下)(司馬 遼太郎、中公文庫)を読んでおくのがよいでしょう。
履修上の留意点	履修にあたっては漢文の基本的な読解力が必要です。
成績評価の方法	理解を確認するために数回小テストを行ないますが、基本的には授業への参加・発表内容で評価します。
教科書／テキスト	教科書は指定しません。プリントを配布します。
参考書	『空海の思想的展開の研究』(藤井淳、トランスビュー、2008年4月刊行/ISBN: 978-4-901510-58-5) 『弁頭密二教論の解説』(那須政隆、成田山仏教研究所)前者は高額ですので適宜貸し出します。
その他	日本の仏教を将来にわたってより深く研究または理解しようと思う人は、必ずサンスクリット語(他にはパーリ語・チベット語・中国語)の知識が必要になります。大学時代は最低でもサンスクリット語の習得に努めて下さ

履修コード	011821 011822
科目名	演習I 演習II
担当者名	松田 陽志

講義の到達目標(ねらい) 曹洞宗において江戸時代は、宗義・宗旨の内容・意義や教団としての枠組みが全面的に見直され、新たな意義付けや体制の構築が盛んに論じられた時期である。中でも多くの議論が展開される、嗣法制度改革をめぐる内容を、関連資料を読解しながら具体的に検討する。

講義の内容／授業スケジュール 嗣法制度改革の経緯と卍山道白（一六三六～一七一五）の嗣法論を関連資料を読解することで検討する。また天桂伝尊（一六四八～一七三五）の『正法眼蔵弁註』と対照させながら、嗣法相続の意義にかかわる当時の議論を理解する。

第1～2回：江戸期の曹洞宗学の展開について（講義）、第3～10回：『宗統復古志』（以降、演習講読）、第11回～14回：『正法眼蔵』「面授」跋文、第15回～28回：『洞門衣衲集』と『正法眼蔵弁註』

履修上の留意点 漢文の訓読に慣れること。事前に予習を行い、受講者で分担して訓読すること。漢和辞典を持参し、積極的に活用すること。授業での不明な点は、必ず授業時間内で解決することを心がけてほしい。

成績評価の方法 出席及び学習態度・発表内容に基づいて評価する。

教科書／テキスト 使用する文献資料はコピーして配布する。

参考書 図書館などの利用方法を含めて、随時紹介する。

履修コード	010701 010702
科目名	演習I 演習II
担当者名	松本 史朗

講義の到達目標(ねらい) インドの大乗仏教の基本的概念・教理を理解するために、初期瑜伽行派の重要なテキストである『菩薩地』を、サンスクリット語（梵語）の原典で読む。

講義の内容／授業スケジュール 原典を履修者に和訳してもらおう。（1～8）基礎の習得（9～15）教義内容の把握（16～30）文献学的方法の習得。

準備学習 サンスクリット文法の学習

履修上の留意点 テキストは、サンスクリット語なので、サンスクリット語初級を修了した程度の語学力を要する。

成績評価の方法 成績評価は、平常点（原典読解力）による。

教科書／テキスト Dutt本、Wogihara本を使用、初回、教場で指示する。

履修コード	011811 011812
科目名	演習I 演習II
担当者名	村松 哲文

講義の到達目標(ねらい) 本演習は、禅美術・仏教美術の研究を志す学生を対象とする。美術史を研究してゆく上で必要なことは、漢文読解の能力と美術品観賞の眼力である。授業では、『七大寺巡礼私記』あるいは『魏書』釈老志などを輪読しながら、適時受講者による発表を行ってもらう。また、美術館・博物館の見学を通じて美術品の基礎的な観賞法をトレーニングしてゆく。

講義の内容／授業スケジュール 発表では、各自担当分の読み下しと現代語訳を用意してくること。また輪読の合間に、受講者が興味を抱いている研究課題について随時報告をしてもらう。さらに卒業論文の構想を発表する機会を設けたいと考えている。

準備学習 漢和辞典を必ず入手して、引き方を身につけておくこと。

履修上の留意点 美術品の観賞は経験がものを言うので、時間のゆるす限り実物を観る機会を多くつくること。

成績評価の方法 発表内容と出席率などによる総合評価。

教科書／テキスト プリントで配布する。

参考書 随時紹介する。

履修コード	010901 010902
科目名	演習I 演習II
担当者名	吉津 宜英

講義の到達目標(ねらい) 東アジアにおける中道思想論
 仏教の実践の原点は『律蔵』『大品』での五比丘への説法、初転法輪に見られるように苦楽の二辺を離れた中道にあると思います。また釈尊が重要な場面で強調した自洲と法洲の水平対等のあり方も中道の内容を規定する姿勢と考えます。ところで大乘になると空が強調され、一切の法の階層性が空じられて、例えば「生死即涅槃」「煩惱即菩提」に類する相即観が説かれます。そのような相即観は「不二」とも表現され、例えば吉蔵の三論教学には「不二中道」の用例も見えます。私は中道に不二の意味を読み込むことは中道の原意から逸脱すると考えています。東アジアの諸教学に中道の諸形態を探りたいというのが私の課題です。

講義の内容／授業スケジュール 前期の第1回目はガイダンスと自己紹介です。5月の第一週までは、小発表のやり方や論文の書き方の説明をします。5月の二週目から皆さんに小発表をお願いします。毎週2人ずつ当たります。その順序は私に任せて下さい。年間で1・2回、15分前後の発表です。レジメは必ず用意して下さい。レジメの印刷は私の研究室に来て下されば、事務所でプリントします。発表の司会は私が務めます。発表が終わったら、質疑と討論に移ります。出来れば自主的に挙手して、意見を述べたり、質問して下さい。挙手が無い場合は私が順次指名しますので、意見・質問・感想などを述べ、発表者はそれに応答して下さい。この討論の部分にこの演習の重要性があります。毎回の発表者の発表内容こそは私のゼミのテキストと考えています。それをみんなで討論しながら、分析し、考察するわけです。それにより、発表者は新しい課題を見出すでしょう。また討論により他の方々もそのテーマに関しての認識を深め、自分の意見の形成に役立つと思います。後期の第1回目、後期の最終回、また所要所では私の小発表も入ります。

準備学習 いつも、何かについて、何故だろうと考える習慣を付けて下さい。

履修上の留意点 発表者は発表内容の説得力を身に付けて下さい。聴く側の方は発表者の発表内容をよく理解することが大切です。また出来るだけ積極的に演習の討議に参加して、質問することが発表と同様に自分の論理性を高めるものであることを分かって欲しいと思います。

成績評価の方法 小発表の内容と、毎週の質疑応答に積極的に参加することを評価の第一のポイントにします。次に1月15日締め切りで5枚以上(400字原稿用紙換算、ワープロによる作成が望ましい)の小論文の提出を求めます。小発表と小論文のテーマは異なってもかまいません。以上の小発表と小論文、そして質疑応答への積極的な参加を見て、総合的に評価します。

教科書／テキスト 別にありません。

参考書 別にありません。

履修コード	011601 011602
科目名	演習I 演習II
担当者名	吉村 誠

講義の到達目標(ねらい) 東アジアの唯識思想および如来蔵思想について考察する。また、高僧伝や仏教説話、如来・菩薩の信仰、儒教・仏教・道教の交渉についても研究・指導する。
 経論や伝記の精読を通じて、唯識思想と如来蔵思想の交渉、インド・西域・中国の仏教文化の比較、仏教説話の展開などを多角的に考察したい。
 学生諸君の研究発表も随時行う。

講義の内容／授業スケジュール 本年度は、帰国後の玄奘(602-664)の事蹟と思想について検討する。
 前期(1)玄奘の唯識思想 (2~10)『成唯識論』巻8(三性説)を読む (11~14)4年生の研究発表 (15)まとめ
 後期(1)玄奘の伝記資料 (2~10)『続高僧伝』巻4(玄奘伝)を読む (11~14)3年生の研究発表 (15)まとめ

履修上の留意点 漢文訓読の予習をして授業に臨むこと。意味の分からない語句は、必ず漢和辞典や仏教辞典で調べること。

成績評価の方法 出席と予習の状況、研究発表、レポートによる総合評価。試験は行わない。

教科書／テキスト コピーを配布する。

参考書 授業中に随時紹介する。

履修コード	004101
科目名	外国語禪書講読
担当者名	古山 健一

講義の到達目標(ねらい) 外国人により外国語(主として英語)で著された、禅思想を主題とする書籍(禅思想に大きな関心を寄せている仏教書も含む)を講読する。特にこの授業では、禅学を専門分野としない外国人の学僧ないし仏教研究者が著した書籍をとりあげ、「禅」に対する理解を、より広く多角的な視野のもとに涵養していくことを期したい。

講義の内容／授業スケジュール 本年度は、ブッタート比丘『菩提樹の心髄—空性に関するブッタの教え』(Buddhadasa Bhikkhu . Heartwood of the Bodhi Tree . The Buddha's Teaching on Voidness . Trans. Dhammavicayo . Boston : Wisdom Publications . 1994 . / ISBN-13: 978-0861710355 / 言語: 英語)をとりあげる。
 本書の著者ブッタート比丘は、前世紀におけるタイの高名な学僧の一人である。彼は、上座部仏教僧でありながらも、若い頃より中国禅に関心を寄せ、禅籍のタイ語訳にも携わったことがある。彼はまた、上座部仏教の伝統教学にとらわれない自由な立場での仏教を論じ、禅における空性思想から着想を得て独自の涅槃論を展開したことで知られている。ブッタートの独創的な思想は、タイの開発僧らの実践理論にも影響を与えたと言われている。授業では、この彼の著作のうち、禅と空性思想に言及する章節を講読する。

準備学習 特になし。

履修上の留意点 英語に自信がなくても履修可能である。英文法や語彙など英語の初歩的な事柄も含めて、丁寧に解説してゆく。授業は演習形式で進めてゆくの、できる限りテキストの和訳(下訳)をおこなった上で授業に臨むこと。

成績評価の方法 授業への出席状況と学習意欲により評価する(定期試験は実施しない)。

教科書／テキスト 英和辞典またはその機能を有する電子辞書(収録語数が十万語以上であるものが好ましい)。講読に用いるテキストは、プリントで配布する。

参考書 初回の授業において指示する。

その他 初回の授業で受講と成績評価についての説明をおこなうので、必ず出席すること。

履修コード	007001
科目名	外国語仏書講読
担当者名	木村 誠司

講義の到達目標(ねらい) 特に仏教論理学関連のものを読む予定である。仏教論理学は、一般的な仏教学習とは、関わりが薄いように思われ、敬遠されがちだが、無視出来ない分野である。中国や日本の仏教を理解するためにも、必要と思われる。異質な仏教を知ること、かえって、自分の学んでいる仏教の本質が見えてくることもある。インドやチベットでは、不可欠な学問とされた仏教論理学の意味を認識してもらえれば、それで十分である。場合によっては、受講者と相談の上、テキストを変更することもある。

講義の内容／授業スケジュール 第1-3回仏教論理学の意義。第4-15回シチエルバツキーのBuddhist Logicを読み、仏教論理学の基本的概念を学ぶ。第16-30回ムケルジー、スタール、ルエッグ等の研究を読み、様々な角度から仏教論理学を見る。

準備学習 特になし。

履修上の留意点 講義の性質上、受講者の語学力に応じて相当ページ数を訳してもらおう。

成績評価の方法 講義中の平常点で評価する。

教科書／テキスト すべてコピーで配布する。

履修コード	007511
科目名	漢詩作法
担当者名	須山 長治

講義の到達目標(ねらい) 漢詩を学習してゆく。中国では、詩は志の之く所なり、といわれる。もの感じて心が動き、志となったものを言葉にあらわす、すばらしい世界である。古代中国の詩がどういったものであり、それがどのような時代を経て、李白や杜甫といった唐代の詩人たちの作品になっていくか。多くの詩を鑑賞しながら、一般的な知識(文学史や韻・平仄等)も確認してゆき、一年をかけて詩が「言志」といわれる所以を考察していきたい。

講義の内容／授業スケジュール 前期は、①②導入・漢詩全般について。③④⑤詩経。⑥⑦楚辞。⑧⑨戦国時代の詩。⑩⑪⑫漢の時代の詩。⑬⑭⑮三国時代の詩。後期は、①②魏志倭人伝。③④⑤魏晋南北朝の詩。⑥唐詩全般。⑦⑧初唐の詩。⑨⑩盛唐の詩。⑪⑫中唐の詩。⑬⑭晚唐の詩。⑮まとめ。以上の、中国の壮大な詩の流れを学習する。具体的には『詩経』『楚辞』『文選』『玉台新詠』から選び、『三体詩』や『唐詩選』を使って講義を進めてゆく。いずれも鑑賞が主となるが、漢詩の細かい作法をもとに作詩にも言及したい。

準備学習 特になし。

履修上の留意点 積極的にノートをとる姿勢を求める。漢和辞典を持参すること。

成績評価の方法 出席を重視し、学年末のレポート提出によって評価する。

教科書／テキスト プリントを配布する。

参考書 『三体詩』一～四 村上哲見 中国古典選 朝日新聞社
『唐詩選』上中下 前野直彬 岩波文庫
その他、講義中その都度紹介する。

その他 特になし。

履修コード	006451
科目名	教化法
担当者名	永井 政之

講義の到達目標(ねらい) この講座は、現代仏教教団における伝道や教化について、そのノウハウを習得するためのものではありません。むしろ仏教が社会とかかわりにおいてどのように「教え」を広めていったかを歴史の中で検証しつつ、民衆がその「教え」をどのように受け止めていったかを考えようとするものです。問題は多岐にわたりますので粘り強く受講してください。

講義の内容／授業スケジュール はじめに「教化」の意味を考えつつ問題の所在を考えます(1~2)。ついで初期仏教と民衆(3~4)、大乘仏教と民衆(5~6)、初期中国仏教と民衆(7~8)、初期禅宗と民衆(9~11)、唐代の禅と民衆(12~15)、宋代の禅と民衆(16~20)、明代以降の禅と民衆(21~23)、両祖〔道元・瑩山〕と民衆(24~27)、余論(28~30)の順で講義を行います。

履修上の留意点 単に講義をするだけでなく原史料を扱うことも少なくないので、必ず「漢和辞典」を用意すること。

成績評価の方法 年度末に筆記試験を行い、また普段の受講態度などをふくめて総合的に判断します。

教科書／テキスト テキストはありません。参考資料は、必要に応じてコピーで配布します。

参考書 講義の中で随時紹介します。

履修コード	007301
科目名	キリスト教概論
担当者名	土居 由美

講義の到達目標(ねらい)	本講義では、仏教・イスラームと共に世界三大宗教の一つに位置付けられるキリスト教について、その聖典である旧・新約聖書を軸としつつ、歴史・風土・文化的側面なども踏まえながら、多様な側面から学ぶ。
講義の内容／授業スケジュール	概ね以下の内容を扱う。尚、各講義に用いる時間数は、毎回の授業の状況に応じて調整してゆく予定。 [前期] 1. 導入・アンケート、2. 授業の方法(宗教学的方法・神学的方法について) 3. 一神教とキリスト教、4. 旧約聖書(成立・構成・歴史・風土)、5. 旧約聖書(基本的世界観・神観・人間観/3回程度を予定)、6. 旧約聖書(モーセ五書と律法/数回を予定)、7. 旧約聖書(預言者(書))、8. 旧約聖書(諸書/2回程度を予定) [後期] 1. 導入・新約聖書(成立・構成)、2. 新約聖書(ナザレのイエスの登場・背景)、3. 新約聖書(イエスの活動と思想/マルコ福音書/2回程度を予定)、4. 新約聖書(イエスの思想と活動/マタイ福音書・ルカ福音書3回程度を予定)、5. 新約聖書(イエスの活動と思想/ヨハネ福音書・ヨハネ文書/2回程度を予定)、6. 新約聖書(原始キリスト教の形成/使徒言行録)、7. 新約聖書(原始キリスト教の形成/パウロの書簡/2回程度を予定)、8. その他の文書(黙示録等)
履修上の留意点	講義は、適宜視聴覚教材なども用いながら進め、また、リアクションペーパーを用いて、授業への質問やコメントを提出する機会を設ける予定。従って、毎回の講義への積極的な取り組みが進められる。
成績評価の方法	以下の割合で総合的に評価する(出席30%、授業へのコメント10%、学年末のレポート60%)
教科書／テキスト	特に用いない。授業中にプリントを配布する。
参考書	講義内容に応じて、適宜授業中に指示する。

履修コード	005301
科目名	原始仏教
担当者名	片山 一良

講義の到達目標(ねらい)	原始仏教とは仏教の源泉である。いわゆる大乘仏教も小乗仏教も、あるいは上座部仏教もすべてここより発している。その教えとは何か、すなわち釈尊の智慧と慈悲による教えとは何かをパーリ仏典(原始仏教聖典)の言葉より明らかにしたい。また、教えの根幹をなす「寂靜」、あるいは「禪」に触れつつ、我々の身近な問題についても考えたいと思う。
講義の内容／授業スケジュール	前半は仏伝を紹介しつつ、教えの基本となる縁起・四聖諦について、後半はパーリ仏典を読み、教えを確認しつつ、仏法について講じる。とくに前半は仏の伝統、波羅蜜行、誕生、修行・苦行、成道、説法、入滅について概観し、後半は『転法輪経』『無我相経』などを読み、八正道、三学の実践を、さらにまた慈悲の教えをも見ることにしたい。
履修上の留意点	従来の「仏教」に対する先入見を離れ、パーリ仏典(原始仏教聖典)を直接に読むことを勧めたい。たとえば、『パーリ仏典・中部』の第2「一切煩惱経」、第9「正見経」など。
成績評価の方法	レポート(夏期)および年度末テストによる。
教科書／テキスト	とくに使用しない。随時、資料プリントを配布する。
参考書	片山一良『ブッダのこぼれ パーリ仏典入門』(大法輪閣)、『ダンマパダ 全詩解説』(大蔵出版)など。

履修コード	006901
科目名	現代哲学概説
担当者名	久保 陽一

講義の到達目標(ねらい)	世界の原理は古代ギリシア哲学では「自然」に、中世キリスト教哲学では「神」に、近代哲学では「人間」に認められた。だが19世紀後半以後のいわゆる現代哲学では、近代哲学を前提している点では共通しているものの、共通の積極的原理を見出すことは難しい。一方では、人間の本来のあり方を問うた、生の哲学や実存主義、他方では、認識や言語のあり方を探求した、新カント派、現象学、解釈学、分析哲学、また社会的変革をめざしたマルクス主義が並立している。そこで、講義では、近代哲学(デカルトからドイツ観念論まで)を概観した後で、これらの代表的な現代哲学を概説する。
講義の内容／授業スケジュール	(前期) 近代哲学の諸問題、現代における人間と社会の在り方の探求(生の哲学、実存主義、マルクス主義、環境倫理学) (後期) 現代における認識と言語の在り方の探求(新カント派、現象学、解釈学、分析哲学、物語の哲学)
履修上の留意点	ノートをよく取ると同時に、自分の問題に引きつけて考えていくという積極的な姿勢が望ましい。
成績評価の方法	出席数、試験(前期と後期)、レポートによって評価する。
教科書／テキスト	久保・河谷編『原典による哲学の歴史』(公論社)3,200円
参考書	久保陽一『ドイツ観念論への招待』(日本放送出版協会) 久保陽一『生と認識』(知泉書館)

履修コード	000401
科目名	坐禅I
担当者名	角田 泰隆 岩永 正晴

講義の到達目標(ねらい) 仏教学・禅学は、共に坐禅に基づく智慧の宗教の知的営為である。しかしこれは、単に相対的知解の究明にのみ終始するのではなく、その究極は不曾染汚の行持である坐禅の、不断の実修にこそ、その重心があることを忘れてはならない。無偏無党の坐禅なくして正遍知による見極めはありえない。従って、坐禅が、常に学問する者の上に正しく位置づけられて行くのであれば、真の仏教学・禅学とは言えない。かかる道元禅師の正伝の坐禅を実修して、自他の見を超えた無所得無所悟の仏法を行持することに勤めて行く。

講義の内容／授業スケジュール 全時間、坐禅実習・経行・講義を行い、前期（1～15）は『正法眼蔵坐禅儀』と『経行軌』について、後期（16～30）は『普勧坐禅儀』について講じ、道元禅師正伝の仏法を明らかにする。

履修上の留意点 仏教を学ぶ者の基本であるから、自らの節度ある生活を心掛け、実習に臨んでは次のことを堅く守ること。
 (1) 新学期最初の授業は、坐禅堂における進退・作法と席次など必要事項を指示するので、必ず出席すること。
 (2) 時間厳守：始鈴10分前に全員入堂し、坐禅に入ること。遅刻・早退は全て欠席とする。
 (3) 私語・懈怠の厳禁：坐禅堂のある禅研究館の四階では、一切の私語をせず、毎時間、懈怠を戒めて真摯に精励すること。
 (4) 威儀厳正：仏制に順じて虚飾を避け、正服を基本に清楚な服装を心掛け（夏季は白のYシャツ可）、堂内の進退は作法に随い、身のすまいを正して厳肅に勤めること。
 (5) 直堂の当番：直堂を、毎時間2名（前策と後策）ずつ勤めるが、当番に充った者は、責任をもって、予め講本の作法をよく読んで理解し、前回の担当者からよく習って進退・作法を確認して行うこと。無責任なため叱責されるなど、全員に迷惑をかけぬよう注意すること。

成績評価の方法 (1) 全時間の「3分の2」以上の出席と、毎時間、真摯に実習したかを点検し、総合判断して評価を決める。
 (2) 追試・再試等による救済措置は、全く無い。

教科書／テキスト 『坐禅講本』（更生社）2,266円

参考書 『坐禅用心記』『普勧坐禅儀不能語』

その他 授業は、40分間の坐禅、10分間の経行、40分間の講義の形式で行う。

履修コード	000501
科目名	坐禅I
担当者名	永井 政之 晴山 俊英 松田 陽志

講義の到達目標(ねらい) 仏教学・禅学は、共に坐禅に基づく智慧の宗教の知的営為である。しかしこれは、単に相対的知解の究明にのみ終始するのではなく、その究極は不曾染汚の行持である坐禅の、不断の実修にこそ、その重心があることを忘れてはならない。無偏無党の坐禅なくして正遍知による見極めはありえない。従って、坐禅が、常に学問する者の上に正しく位置づけられて行くのであれば、真の仏教学・禅学とは言えない。かかる道元禅師の正伝の坐禅を実修して、自他の見を超えた無所得無所悟の仏法を行持することに勤めて行く。

講義の内容／授業スケジュール 全時間、坐禅実習・経行【きん/ひん】講義を行い、前期は『正法眼蔵坐禅儀』と『経行軌』について、後期は『普勧坐禅儀』について講じ、道元禅師正伝の仏法を明らかにする。

履修上の留意点 仏教を学ぶ者の基本であるから、自らの節度ある生活を心掛け、実習に臨んでは次のことを堅く守ること。
 (1) 新学期最初の授業は、坐禅堂における進退・作法と席次など必要事項を指示するので、必ず出席すること。
 (2) 時間厳守：始鈴10分前に全員入堂し、坐禅に入ること。遅刻・早退は全て欠席とする。
 (3) 私語・懈怠の厳禁：坐禅堂のある禅研究館の四階では、一切の私語をせず、毎時間、懈怠を戒めて真摯に精励すること。
 (4) 威儀厳正：仏制に順じて虚飾を避け、正服を基本に清楚な服装を心掛け（夏季は白のYシャツ可）、堂内の進退は作法に随い、身のすまいを正して厳肅に勤めること。
 (5) 直堂の当番：直堂を、毎時間2名（前策と後策）ずつ勤めるが、当番に充った者は、責任をもって、予め講本の作法をよく読んで理解し、前回の担当者からよく習って進退・作法を確認して行うこと。無責任なため叱責されるなど、全員に迷惑をかけぬよう注意すること。

成績評価の方法 (1) 全時間の「3分の2」以上の出席と、毎時間、真摯に実習したかを点検し、総合判断して評価を決める。
 (2) 追試・再試等による救済措置は、全く無い。

教科書／テキスト 『坐禅講本』（更生社）2,266円

参考書 『坐禅用心記』『普勧坐禅儀不能語』

その他 授業は、40分間の坐禅、10分間の経行、40分間の講義の形式で行う。

履修コード	009001 009002
科目名	坐禅II 坐禅I
担当者名	佐藤 秀孝 松田 陽志

講義の到達目標(ねらい) 曹洞宗の坐禅の実践。

講義の内容／授業スケジュール 前半の実習時間は坐禅と経行（きんひん）の実習となる。経行の後は瑩山紹瑾禅師の『坐禅用心記』を講じる。実習要領および履修に当たったの心構えは、すべて「坐禅I」に同じ。

履修上の留意点 科目の性格上、遅刻は一切認められない。
 実習に臨むに際しては、服装・言動など常に厳肅・整齊であることを要求するので、予めよく承知しておくこと。
 なお、学年度最初の授業では、席次（単）の決定や必要な諸注意を行うので、履修する者は必ず出席すること。

成績評価の方法 授業実施回数に対する出席回数をもって機械的に判定する。レポート提出等による救済措置は一切行わないので注意すること。
 また坐禅堂の内外における服装や態度に著しく適正を欠くと思われる場合や、講本の忘失などは厳しく減点の対象とする。

教科書／テキスト 『坐禅講本』（更生社）

履修コード	008001
科目名	サンスクリット語上級
担当者名	金沢 篤

講義の到達目標(ねらい)	仏教などのインド起源の宗教・哲学や文化・歴史を本格的に学ぶために不可欠の語学であるサンスクリット語の上級篇。
講義の内容/ 授業スケジュール	定評ある下記の教本をテキストに、サンスクリット語に関係の深いデーヴァナーガリー文字に習熟し、サンスクリット文法を改めて確認すると共に、サンスクリット文解読のための実際の力を養う。演習形式。 ◎インド古典語とサンスクリット(1～2) サンスクリット文法とインドの種々文字 ◎「ナラ王物語」(『マハーバータ』のサンスクリット文)の講読(3～) 輪読形式で文法的事項に配慮しつつとにかく読み進める ◎「ヒトパデーシャ」(サンスクリット散文)の講読
履修上の留意点	サンスクリット語初級程度の修了者であることが望ましい。
成績評価の方法	成績評価は、出席点を含む平常点をもってする。
教科書/テキスト	ランマン著『サンスクリット読本』(Charles R. Lanman, A Sanskrit Reader) OUP
参考書	辻直四郎著『サンスクリット文法』(岩波書店)

履修コード	007901
科目名	サンスクリット語初級
担当者名	金沢 篤

講義の到達目標(ねらい)	仏教などインド起源の宗教・哲学や文化・歴史を本格的に学ぶために不可欠の語学であるサンスクリット語の入門。
講義の内容/ 授業スケジュール	定評ある下記の初等文法書に沿って、サンスクリット語の特徴・概要を知ると共に、適宜練習問題などをふんだんに実習して、サンスクリット文解読のための実際の・基礎的な力を養う。 ◎サンスクリットとは?(1～3) ◎サンスクリット文法の概容(4～10) 文字・音論・曲用・活用などの基礎的文法事項を学ぶ ◎サンスクリット文法の実践的学習(11～20) 短文からなる練習問題を用いてサンスクリット文法の理解に徹する ◎サンスクリット文法知識の実際の活用(20～) 『ヒトパデーシャ』などの物語からの撰文を用いて実際の知識を習得する
履修上の留意点	予習・復習を怠らず、常に主体的・積極的に授業に参加することが望ましい。
成績評価の方法	平常点と期末・年度末の筆記試験。
教科書/テキスト	J・ゴンダ著『サンスクリット語初等文法』(春秋社)
参考書	辻直四郎著『サンスクリット文法』(岩波書店)

履修コード	006811
科目名	宗教学概論
担当者名	長谷部 八朗

講義の到達目標(ねらい)	宗教学とはどのような学問か、それが個人や社会に対して成しうるあるいは成すべき役割・意義を、さまざまなトピックを取り上げて考える。
講義の内容/ 授業スケジュール	第1～3回:宗教学の性格と歴史、第4～7回:宗教とは何か、第8～10回:宗教の種類、第11～15回:さまざまな儀礼とその意味、第16～19回:宗教と救済、第20～22回:修行、第23～25回:日本人の宗教観、第26～28回:現代社会と宗教、第29～30回:まとめと補説
成績評価の方法	年度末の試験の他に、出席状況、授業中に数回書いてもらう予定の小論文などを勘案して総合的に評価する。
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	『宗教学ハンドブック』(世界書院) その他、授業中に紹介する。

履修コード	006801
科目名	宗教学概論
担当者名	矢野 秀武

講義の到達目標(ねらい)	特定の信仰を持っている人、宗教には興味があるけれど信仰をもっていない人、宗教や信仰など自分には関係ないと思っている人など、宗教については様々な立場からの理解や意見がある。また、これらの様々な意見を橋渡しするような、宗教学のものの見方もある。本講義では、世界の宗教の多様性を理解し、宗教伝統や宗教的現象について、無批判に肯定するのではなく、闇雲に批判し遠ざけるのでもない、そういった視点から理解することの重要性を学んでもらいたい。
講義の内容/ 授業スケジュール	前期は、宗教学の基礎(1～3)、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム、神道などの宗教をとりあげ(4～10)、また聖と俗、信仰と儀礼といった、宗教学のものの見方(11～15)を解説する。 後期は、神がかりや神秘体験など宗教現象における特異な体験(16～22)、さらに宗教心理学や宗教社会学のテーマとして、回心やカルト問題、また宗教人類学のテーマとして、まじないやアニミズム(23～28)などから、宗教を理解する視点を紹介する。最後に、宗教学から見た宗教、宗教学を学ぶ意義について解説する。(29～30)
履修上の留意点	レポートや試験形式、その他授業の基本的な約束事は、初回の授業でプリントを配布し、解説する。
成績評価の方法	出席点(20%)、各回提出のコメントシートの内容に即した評価)、前期レポート(40%)、夏休み前に課題を提示・後期初回に提出)、後期の定期試験期間における筆記試験(40%)を総合して評価を行なう。
教科書/テキスト	なし
参考書	授業時に随時紹介する。

履修コード	007101 007102
科目名	宗教教育
担当者名	小山 一乘

講義の到達目標(ねらい) 用語「宗教教育」の教授概念には現今、宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派信仰教育、対宗教安全教育、宗教的寛容教育の五があり、論者は、先入観的に、いずれか一の義で解釈し、他は棄却してしまっているという傾向が重大問題としてある。当事態を解説・講義する。当事態の史的背景にある宗教教育改革を企図する対日米国占領政策のねらいに、米国流の宗教教育施策があったこと、また、日本国憲法20条の規定不備や教育基本法9条の補充規定の不徹底に起因する事後の紆余曲折事態が宗教教育論を迷走させた経緯を解説し講義をする。さらに新「教育基本法」の改正点について講義をする。その上で、あらためて「宗教の定義」の諸相を概観する。関係法規は宗教の定義を他に委ねている。

本講義は、決して、或る特定の宗教・宗派を価値ありとして判定して促進したり、または、価値なしと判定してそれを抑制したりするというそのような内容・方法を専らに考えるというような、とかくありがちないわゆる宗派信仰への導入をのみ考えるという狭義の宗教教育を構想する講義ではない。端的には自覚的寛容の態度育成の方途を構想する。種々の宗教と称されている現象事例を取り上げる。

具体的には、身振り・音声・文字等の各教材、マルチメディア等を用いて、様々な題材を取りあげる。いわゆる神仏習合を彷彿とさせる広義の伊勢音頭、各地の民謡、歌謡曲、唱歌、教え歌、演歌、浪曲、説話、写真、古典音楽、詩、書など様々なジャンルの現象を観る。日常の実際生活の深層・表層面で、宗教的事柄が隠れたカリキュラム又は顕れたカリキュラムとして、人間形成に関与している諸相を考察する。

講義の内容／授業スケジュール 予定は、前期では、(1～2回)用語「宗教教育」の教授概念5類型、(3～4回)宗教的情操教育の成立をめぐる対立的2見解、(5～6回)学校教育法にみえる用語考「目的・目標」、「判断力・批判力」、「選択・決定」、「(7～8回)教育観の分類:「開発・注入」「本覚・始覚」、(9～10回)「宗教の様々な分類」、「宗教の定義集」、あなたの定義を考える端緒、(11回)日本国憲法・教育基本法・初期社会科学学習指導要領の相互補充関係(旧教育基本法第9条立法制定審議の推移の検証)、(12～13回)対日米国占領教育改革政策が胚胎していた異文化理解問題の史実宗教教育と宗教科教育(教育職員免許法に規定)との差異検討(一だれでもの国語教育と、誰でもではない国語科教育との比較からの援用論)

後期は、(14回)命題「法は風土の産物」(モンテスキュー『法の精神』)考、世界各国の風土、風習、習慣、慣習、法、(15回)比較法各国の宗教教育、(16回)これからの宗教教育の教授概念検討(不均衡是正)政策・法律論議「何を教えることができないのか」の禁止事項教授概念論議、「何を教えることができるのか」の肯定的事項、(17～18回)シェフラーの教授概念検討(意図的用法、行動的用法、行動的解釈・非行動的解釈、事象的言明文・規範的言明文、(19～27回)宗教教育の指導計画(児童生徒の疑問態、国内外の種々の歌、種々の年中行事(節分、雛祭り、七夕など)、合格祈願、日常用語になった仏教用語(挨拶・会釈・我慢・玄関・工夫・覚悟・油断・娑婆等)、医療現場のターミナル・ケア等、通過儀礼(入学式、卒業式、入社式、成人式、結婚式、等)等考察、(28～29回)自由討議(これからの宗教教育のあり方)、(30回)まとめ

履修上の留意点 宗教教育という用語への偏見・先入観をいったんは払拭して欲しい。教場の一時的移動指示掲示に注意すること。宗教学、宗教学人類学等の関連授業科目を積極的に受講することを是非すすめたい。

成績評価の方法 レポート(夏季休暇後及び学年末提出、その他中間で適宜にレポート提出を求める)を基本に評価する。出席も尊重する。

教科書／テキスト 教材は適宜プリントを配布する。

参考書 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこがちがうか』(大法輪閣、¥1,600)

その他 講義形式で実施する。資料整理用のA4版ファイル表紙を用意すること。詳細は授業にて。

履修コード	003301
科目名	宗教史
担当者名	長谷部 八朗

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、日本宗教史を民衆宗教論の立場から考える。仏教を中心に、修験道、神道、キリスト教なども視野に入れて進める。

講義の内容／授業スケジュール 第1～3回:宗教史という学問の性格について、第4～7回:日本宗教史研究の成果と課題、第8～13回:民衆宗教史の時代相(古代)、第14～19回:民衆宗教史の時代相(中世)、第20～25回:民衆宗教史の時代相(近世)、第26～28回:民衆宗教史の時代相(近代)、第29～30回:まとめと補説

成績評価の方法 年度末の試験に、出席状況と授業時に数回書いてもらう予定の小論文を加味して総合評価する。

教科書／テキスト 使用しない。

参考書 授業の中で適宜紹介する。

履修コード	006001
科目名	宗教哲学
担当者名	河谷 淳

講義の到達目標(ねらい) 宗教がなにかを「信じる」ことであり、哲学が既存の世界観を「疑う」ことだとすれば、両者は互いに対立するように見えるかもしれない。だが、古代ギリシア以来の西洋思想史を概観してみるならばそうした理解は必ずしも正しいとは言えない。宗教哲学とはそうした信と知が交錯する地点に位置づけることができる。この授業では主にキリスト教的哲学を題材として取り上げはするものの、教義の解説を目指すのではなく、「信じる」という人間の営みがどのような地平において成立するのかについて哲学の側から考えることを主要な目的とする。また、西洋哲学史の概略や基本的な哲学用語についても理解を深めてもらえるよう配慮したい。

講義の内容／授業スケジュール 序論(1,2)、神話と哲学:ギリシア神話と哲学の始まりとしてのギリシア哲学(3～7)、信念形成と合理性:テルトゥリアヌス・「バスカルの賭」(8～11)、神義論:完全善の神とこの世の悪とは両立するか(12～15)、神の存在証明:宇宙論的証明・目的論的証明・存在論的証明(16～22)、倫理と宗教の相補的關係:カント倫理学と宗教哲学(23～26)、「天使」の哲学:天使の存在可能性と心の独立存在可能性(27～29)、まとめ(30)

成績評価の方法 中間試験(前期最終授業日に実施)と期末試験(それぞれ40点満点)ならびに出席状況の総合点で評価する。

教科書／テキスト 上枝美典『「神」という謎-宗教哲学入門-』[第2版]、世界思想社

履修コード	007201
科目名	宗教法概説
担当者名	村上 興匡

講義の到達目標(ねらい) 信教の自由によってどんな宗教を信じるかということが個人の権利として認められている一方、宗教団体は社会の中で一定の公的な責任を果たすべきだとされる。オウム真理教事件をきっかけとして、その責任をより果たすよう宗教法人法が改正された。ここ数年の公益法人制度見直し論でも、宗教法人は無関係であるとはいえない。こうした宗教をめぐる法的環境の変化の背景には、日本人の宗教に対する意識やつきあい方の変化が存在している。法律の条文の解釈に終始するのではなく、宗教と法制度についての基礎的な考え方について学ぶとともに、背景となる社会変化と宗教との関係に踏み込んで考察する。講義だけでなくビデオ映像などをできるだけ利用したい。

講義の内容／授業スケジュール 背景となる近代以降の社会変化について目配りしながら、できるだけ具体的な事件、裁判等についてみることで、信教の自由、政教分離、宗教団体の公益性等、幅広く宗教と法律とをめぐらる問題についての基本的な考え方について学ぶ。
前期は、明治以降の社会変動と日本人の宗教行動・意識の変容を扱いながら、憲法における宗教の扱い、宗教法人、宗教法人法の枠組みについて学ぶ。
後期は、海外との法制度における宗教・宗教団体の扱いの相違、信教の自由、政教分離の具体的な裁判・問題を扱う。

成績評価の方法 試験とレポート。授業時に数回ミニレポートを課し、評価の一部に加える。

教科書／テキスト 授業の中で、適宜、プリントを配布する。

参考書 授業の中で、適宜紹介する。

履修コード	000701
科目名	宗典
担当者名	角田 泰隆

講義の到達目標(ねらい) 曹洞宗の両祖、道元禪師と瑩山禪師の著作を講義する。

講義の内容／授業スケジュール はじめに、曹洞宗の一仏両祖(釈尊・道元禪師・瑩山禪師)について概説し(1~3)、その後、道元禪師の著作(『正法眼蔵』・『弁道話』・『永平広録』・『学道用心集』・『典座教訓』等)、瑩山禪師の著作(『伝光録』)の中から重要と思われる説示を取り上げて講義する(4~30)。

履修上の留意点 教科書は用いないので、筆記用具を調べ、講義の内容をしっかりと記録すること。(定期試験には、配付資料と自筆ノートの持ち込みを許可する)

成績評価の方法 定期試験によって評価する。

教科書／テキスト なし。毎回、資料を配布する。

参考書 講義の中で、紹介する。

履修コード	000601
科目名	宗典
担当者名	松田 陽志

講義の到達目標(ねらい) 日本曹洞宗の開祖道元禪師の行実(伝記)と教説を、『正法眼蔵』をはじめとする著述や伝記資料に基づいて概説・講読する。特に道元禪師の仏道を求める視点と姿勢について考える。
学術的研究の論点や解釈を知ること、道元禪師の生き方と教えを、自分が把握することの意味を考える手がかりをつかむこと。

講義の内容／授業スケジュール 道元禪師の伝記・著作資料・思想内容の三分類により、各資料を随時配付する。
第1~2回：資料の扱い方と伝記資料、第3~4回：道元の両親、第5~6回：出家の志、第7~9回：出家の道心、第10~11回：威儀即仏法・作法是宗旨、第12回：能忍と榮西、第13~14回：明全と道元、第15~16回：新到列位問題、第17~18回：典座との問答、第19~20回：諸山歴遊、第21~23回：如浄との面授、第24~25回：興聖寺から永平寺へ、第26~28回：『正法眼蔵』の撰述と入滅

履修上の留意点 毎回出席し、配布する資料を整理・保存しておくこと。授業中に小テストを行うので、授業で取り上げる重要な述語を自分で整理して把握すること。小テスト終了後は、不正解の箇所を必ず復習しておくこと。

成績評価の方法 出席点と随時授業内に行う小テスト及び年度末試験によって評価する。

教科書／テキスト 配布プリントにしたがって講義する。

参考書 配布資料や授業の中で、随時紹介する。

履修コード	007801
科目名	書道
担当者名	綾部 宏行

講義の到達目標(ねらい) 「書道」は素晴らしい東洋文化である。文学であり美学であり、「道」としての精神性も求められる。その「書道」を、講義と実習により追求してゆく。

講義の内容／授業スケジュール -前期-
1. 書道入門 2. 自分の名前を書こう(全員に手本を書きます) 3. 行書入門
4. 草書入門 5. 楷書入門 6. 実用書入門
-後期-
1. 王羲之を学ぼう 2. 顔真卿を学ぼう 3. 空海を学ぼう 4. 墨跡を学ぼう
5. 書と禅 6. 書道史と書論

履修上の留意点 実習科目であるので、半紙が書ける程度の道具を準備されたい。(道具は手持ちのものでかまいません。また初めに丁寧に説明しますので、ない者でも大丈夫です。)

成績評価の方法 成績は、提出物(書作品)や、レポート、出席等の平常点等を勘案して評価する。

教科書／テキスト 特にテキストはなし。

その他 本講座では必ずしも上手な書のみを期待しない。自分なりに味わいのある書を心がけて欲しい。

履修コード	005701
科目名	真宗学概論
担当者名	爪田 一寿

講義の内容／ 授業スケジュール	①親鸞の生涯と思想、②親鸞以後の真宗教団の展開を概観する。 講義予定は以下の通り。 第01回 インTRODクシヨン 第02回 親鸞以前の浄土教①～浄土三部経～ 第03回 親鸞以前の浄土教②～七高僧～ 第04回～第13回 親鸞の生涯～『親鸞聖人絵伝』を読む～ 第14回～第15回 アニメ映画『親鸞さま』を観る 第16回～第22回 親鸞の思想 第23回～第29回 親鸞以後の真宗教団 第30回 まとめ
--------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

成績評価の方法 ①出席(20%)、②期末レポート(前期40%、後期40%)で評価する。

教科書／テキスト 『教行信証』・『歎異抄』(岩波文庫)

参考書 真宗教団連合[編]『親鸞』朝日新聞出版、2009年

履修コード	070901
科目名	心理学概論
担当者名	間島 英俊

講義の到達目標(ねらい) 心理学は人間の心の理解を科学的に究明する学問のひとつである。研究方法はさまざまであるが、その目的は同じである。この講義では、諸君らがその目的を考えるために、心理学の各領域の基本的事実を、わたしたちの日常生活の中から説明していきます。

講義の内容／ 授業スケジュール	ガイダンス 1 ひととなりを考える：パーソナリティ心理学 2 自己から自己へのタイムトラベリング：発達心理学 3 “こころ”のゆきづまり：臨床心理学 4 人と人との絆：社会心理学、家族心理学 5 みること・きくこと：知覚心理学 6 学ぶこと・考えること：学習心理学、認知心理学 7 ことばとコミュニケーション：言語心理学 これらのテーマに基づいて、1テーマ4時間をかけ、講義を中心に簡単な調査、検査、小実験を行います。
--------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修上の留意点 この講義は卒論、修論のデータ収集に率先して協力します。調査・実験協力者となることにより、次に諸君らの卒論における実施者としての姿勢に備えるためです。そのために「実験参加カード」を配布し、その参加ポイント数により授業評価に反映されます。

成績評価の方法 3分の2以上の出席は必須です。基本的には最終講義時間にて実施される授業時間内試験(定期試験と同価値)にて8割、残り2割は実験・調査参加(1割)並びに課題(1割)により評価される。

教科書／テキスト 中村昭之編『心理学概説』八千代出版

参考書 講義にて紹介します。資料はその都度配布しますが、欠席した者への後日配布はしないので、休んだ分は友人に依頼してもらるかコピーにて補充のこと。

履修コード	006701 006702
科目名	青少年指導演習
担当者名	西村 寛子

講義の到達目標(ねらい) 青少年への理解とその指導について、体験を通して実習を柱に学んでいく。その基となる基礎的な知識、学習と共に、人間関係の基となるコミュニケーションスキルが身に備わるよう、実習を通し取り組んでいく。

講義の内容／ 授業スケジュール	《前期》 1. 体験を通して学ぶ意味について 2. 青少年へのかかわり、指導とは-自らの体とこころをほぐし、関わり易い環境づくりの実習 3. 実習を通して、自己理解を促進し指導・援助の基礎を学ぶ 4. 青少年期を発達的に概観して学ぶ。 《後期》 5. 話を聴く意味と実習 6. カウンセリングマインドを学ぶ-積極的関心や共感等について 7. 「私」のものがたりを理解していく 8. 事例を通して学ぶ-不登校、いじめ、反社会的行動等 9. まとめ
--------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修上の留意点 演習、実習を多く取り入れていく参加型の授業であるので、参加していく気持ちが重要である。毎回質問や感想を〔メモ用紙に〕記入提出してもらい、相互的な授業を行っていく。

成績評価の方法 出席状況、夏休み前、期末の年2回のレポート。

教科書／テキスト 必要な資料はプリントで配布する。

参考書 河合隼雄『カウンセリングの実際問題』(誠信書房)
河合隼雄『大人になることのむずかしさ』(岩波書店)
河合隼雄『昔話の深層』(福音館書店)
山下一夫『カウンセリングの知と心』(日本評論社)

履修コード	006601 006602
科目名	青少年問題研究
担当者名	讃岐 真佐子

講義の到達目標(ねらい) この講義では、「青少年」つまり児童期、青年期（小学生～20代前半頃）に生じる諸問題について、主に発達の、臨床心理学的視点から学ぶことを目的とする。現代は不適応状態や問題が長引く傾向にあり、またその質的側面も、従来の自己葛藤型から漠然とした無気力型へ、さらに言語で訴えるよりも身体症状として現す等、様々な変化が見られるように思う。またこの時期は、一般に親や兄弟、友人、学校や地域等の多くの人との関わりを通して子どもが大人に成っていく、まさしく自分自身を作っていく時である。それだけにこれらの人々といかなる質の関係を持ち、どのような人（大人）と出会うかが決定的に重要な意味をもつと思われる。この講義では、講師の約20年余にわたる臨床心理士としての経験と共に、この時期の青少年に起こり得る諸問題を、発達や事例に則して生き生きと学んでみたいと思う。

講義の内容／授業スケジュール

- (1) 導入：この一年間の講義の進め方
- (2) 現代の青少年が抱える「諸問題」の特徴について
- (3～4) カウンセリングの定義、及び「ことばの多義性」を巡って
- (5～15) 様々な観点から、不登校、友人関係（いじめ）、少年非行などの各テーマ毎に、その概念や事例を中心に学んでいく
- (16～21) この時期に生じるいくつかの症状（対人恐怖、ひきこもり、摂食障害など）について、事例やビデオ視聴などを通して具体的に学んでいく
- (20～25) 知っておきたい思春期以降の心の状態に関する基礎知識
- (26～30) 知っておきたい思春期以前の心の状態に関する基礎知識（いわゆる「発達障害」も含む）

・ただし上記内容は、その時の授業の流れや重点の置き方によって前後することもある。
・またこの授業では、今現在私たちが生きて暮らしているこの社会において起こっている、決して看過できない諸問題についても、ビデオ教材等を適宜視聴し、共に考える時間を持ちたいと思う。（たとえば昨年度は“高齢者の失踪”“子どもへの虐待”など）

履修上の留意点 授業は講義中心となるだろうが、その日の内容への感想や質問を毎回書いて提出してもらおう。そして必ず次回授業の最初に、前回の感想等で受講生全員で共有したい内容や、講師の心に残ったものを読み上げ（氏名は読まず、匿名性を保持する）、また質問などに適宜答えていきたいと思う。この毎回の作業を通して、受講生同士のフィードバックも（間接的ではあるが）自ずと進んでいくように思う。また出席状況と共に、授業態度も重視する。

成績評価の方法 出席状況、筆記試験、夏休みレポート、受講態度

教科書／テキスト 必要な資料は適宜配布する。

参考書

岩宮恵子著『生きにくい子どもたち』（岩波書店）
河合隼雄著『カウンセリングを語る（上下）』（講談社のα文庫）
河合隼雄著『大人になることのむずかしさ』（岩波書店）
河合隼雄著『日本人の心のゆくえ』（岩波書店）
小川捷之・村山正治編『学校の心理臨床』心理臨床の実践2（金子書店）
季刊『仏教一特集癒し』No. 31（法蔵館）

履修コード	004501
科目名	禅学特講I
担当者名	館 隆志

講義の到達目標(ねらい) 鎌倉時代に、日本に禅宗を伝えた栄西（1141-1215）、栄西が開いた建仁寺から出て曹洞宗の法脈を受け継いで帰朝した道元（1200-1253）、道元に続いて中国に禅宗を伝えた円爾（1202-1280）、中国から来朝して日本に禅を弘めた蘭溪道隆（1213-1278）、これら四僧の布教の蓄積によって日本に禅宗が広まったことを、鎌倉時代の無住道暁（1226-1312）が『雑談集』に明確に記録している。

したがって、鎌倉期の禅宗の僧侶を考察することは、後の禅宗の展開を考察する上でも必須の課題と言える。しかしながら、従来はこの期間の禅僧に関してはあまり積極的に研究されてこなかった。そこで、本講義では、栄西、道元、蘭溪道隆、円爾を始め、孤雲懐奘（1198-1280）、寒巖義尹（1217-1300）、一山一寧（1247-1317）なども取り上げつつ、鎌倉時代の主要な禅僧を曹洞宗や臨済宗と言った枠組みに捕らわれることなく禅僧を取り上げて考察し、鎌倉期の禅僧に関しての理解を深めることを目的とする。特に、栄西に関しては、平成26年（2014）に800年大恩忌を迎えることもあり、多くの時間を割いてその理解を深めることとしたい。

本講義で重視することは、それらの禅僧を考察する過程において、研究方法を学ぶことにある。辞書の使い方、図書館の使い方、論文の検索方法等に関する指導を行ない、図書館研修、禅文化博物館の研修を交えて授業を進めていきたい。

講義の内容／授業スケジュール 禅僧を取り上げ、その禅僧が残した著述や手紙、またその伝記が記された僧伝など、さまざまな史料を用いて、禅僧の思想や伝記を考察していくことを目的とする。一人の禅僧に対して、2回から5回の講義を行い、鎌倉期の主要な禅僧を概観することによって、鎌倉期の禅宗についての総合的な理解を深めることを目指す。

履修上の留意点 出席と授業態度を重視する。

成績評価の方法 出席状況と授業態度、ならびに年度末の課題を踏まえて総合的に評価する。

教科書／テキスト 講義時にプリントを配布する。

参考書 講義の中で適宜紹介する。

履修コード	004601
科目名	禅学特講II
担当者名	海老澤 早苗

講義の到達目標(ねらい)	教義史と教団史に片寄っていた仏教史を、総合的に捉え直していこうとする試みの一つの視点として「女性と仏教」の問題があります。 本講義は、まず、「女性と仏教」に関する先行研究を精査し、現在の研究状況を把握する事を目指します。つまり、仏教教義が女性をどのように説いてきたのか、女性が仏教とどのように関わってきたのか、仏教教団にとって女性がどのような役割を果たしてきたのかを、先学達の業績に検討します。 また、それらの視点を以て、例えば日本中世における禅宗の展開を探求した場合、具体的にどのような女性達の姿が浮かび上がるのか、仮名法語や歴史史料を読みながら考察し、今後の課題を明確にしていきます。
講義の内容／授業スケジュール	(1) イントロダクション(1)。(2) 先行研究の把握 ①仏教教義中の女性(2~6)②日本仏教と女性の信心(7~11)③日本仏教における女性の役割(12~16)④中国仏教における女性(17)。(3) 日本禅宗と女性 ①先行研究の把握(18~19)②曹洞宗と女性(20~24)③臨済宗と女性(25~29) (4) 中国禅宗と女性(30)。 ※スケジュールはあくまで目安として下さい。
履修上の留意点	日本仏教史・日本禅宗史・日本女性史等の成果や動向にも留意して下さい。
成績評価の方法	学年末のレポートを基本に、授業への参加態度を考慮し評価します。なお、受講者の人数により変更することもあります。
教科書／テキスト	教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。
参考書	田上太秀『仏教と性差別』(東京書籍、1992)他、講義において随時紹介します。

履修コード	000901 000902
科目名	禅思想概説 禅学研究I
担当者名	石井 修道

講義の到達目標(ねらい)	この講義は中国禅宗史の知識をふまえて、「禅とは何か」を概観するものである。近年の禅宗史では、敦煌文献や『祖堂集』等の利用によって、従来の初期禅宗史は全面的に書き換えられた。一方で、1000年以上にわたって『景德伝燈録』(1004年成立)等に基づいて、禅の歴史は刻まれてきた。たとえば、禅宗の開祖の達磨と梁の武帝との問答は、禅宗史では歴史的な史実ではないと結論されている。道元禅師はもちろん敦煌文献等を知らない。それでは伝世資料に基づいた禅思想が意味ないかと言うと、先にいうように既に1000年以上の歴史が刻まれているのである。この授業では道元禅師の著である『正法眼蔵行持』を学ぶのに、必要な資料についてしっかりとその性格を把握することから始めたい。その上で、禅宗史の意味するものと、道元の意図するものとを合わせ学ぶことによって、禅思想を学んで行きたい。
講義の内容／授業スケジュール	教科書の『道元禅師 正法眼蔵行持に学ぶ』を利用しながら講義を進めたい。『行持』は、上下2巻でできていて、下巻より先に撰述されたと思われる。下巻は菩提達磨・芙蓉道楷・天童如浄がその中心をしめる。特に芙蓉道楷・天童如浄は、道元禅師の思想を考える上で重要であり、禅宗史では深く学ぶことができないので、時間を費やして学んで行きたい。禅宗史と同じ禅者を扱うに当たっても、原典が示されているので、漢文文献になれることも同時に果たしたい。『行持』には多くの禅者が取り上げられているので、30回では終われないかもしれないが、出来るだけ多くの禅者を取り上げたい。
準備学習	前の年度で中国禅宗史を学んだことになっているので、何度も前年度の教科書を読み返すこと。
履修上の留意点	教科書の『道元禅師 正法眼蔵行持に学ぶ』を読み、予備知識を付けておく。
成績評価の方法	夏期休暇後に提出された教科書の感想文(400字詰め5枚程度)のレポート20点と学年末の筆記試験80点で評価する。成績にはある程度出席数を考慮する。
教科書／テキスト	石井修道『道元禅師 正法眼蔵行持に学ぶ』(禅文化研究所)2,415円
参考書	石井修道『中国禅宗史話』(禅文化研究所)3,675円 小川 隆『語録のことは』(禅文化研究所)2,415円 『禅学大辞典』(大修館書店)、入矢義高等『禅語辞典』(思文閣書店)。

履修コード	008911
科目名	禅心理学
担当者名	池上 光洋

講義の到達目標(ねらい)	仏教学部では「坐禅」が必修科目として存在するが、本講ではその坐禅(只管打坐)に対する理解を深め、よりよい状態で実践できるよう周辺諸科学の成果を学んでいく。また“禅”を取り巻く様々な問題にもふれ、問題解決の端緒を探ってゆきたい。
講義の内容／授業スケジュール	まず道元禅師の坐禅観をおさらいした後、坐禅の生理心理学的研究の成果を学んでいく。その後、禅に関するさまざまな話題を概観したい。また只管打坐との対比のため、各種瞑想法も実践する予定である。 第1回 : 前期導入 第2~3回 : 道元禅師の坐禅観 第4~14回 : 坐禅の生理心理学的研究(脳波・呼吸・姿勢・セロトニン等) 第15回 : 前期テスト 第16回 : 後期導入 第17~18回 : 魔境 第19~21回 : 修行者の心理的発達 第22~24回 : 叢林(修行)生活 第25~26回 : 読経 第27~29回 : 葬祭 第30回 : まとめ
履修上の留意点	専用のノートを用意すること。
成績評価の方法	小作文(不定期)・前期試験・後期試験を総合して評価する。
教科書／テキスト	特になし。
参考書	講義中に随時紹介する。

履修コード	002501
科目名	禅籍講読I
担当者名	程 正

講義の到達目標(ねらい)	禅籍特講Iは、中国初期禅宗の文献を適宜取り上げて講読し、それぞれの禅思想の特色を明らかにするものである。
講義の内容／ 授業スケジュール	取り扱う禅宗文献は、主に初祖とされる菩提達摩から、五家の成立以前までのものとする。具体的には、まず禅籍全般(3～4回)について説明し、それから達摩の語録とされる『二入四行論』(9～10回)、東山法門のテキストである『修心要論』(4～5回)、六祖慧能の語録とされる『六祖壇経』(6～7回)などの禅籍を順次取り上げて、解題を行ってから、それぞれの思想的特色を講義していきたい。
履修上の留意点	講義内容を必ずノートすること。出席点を評価に入れるので欠席しないこと。
成績評価の方法	夏休みの課題レポート(20%)、期末試験(60%)、出欠点(20%)の三つを総合的に評価する。
教科書／テキスト	プリント配布。
参考書	適宜に紹介する。

履修コード	002601
科目名	禅籍講読II
担当者名	晴山 俊英

講義の到達目標(ねらい)	修行生活の意義を読み解くことを通して、背景にある禅の思想を理解する。その中から、現代人として吸収できるものは吸収し、自分の人生をより豊かなものにされたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	戒律・清規に関する曹洞宗の文献は多くあるが、本年度は『知事清規』を講読する。 第1回～第3回：講義の概要の説明・清規登場の意義と戒律・曹洞宗の文献 第4回～第16回：語録にみる四知事の悟りの契機 第17回～第18回：語録にみる小頭首の悟りの契機 第19回～第26回：四知事の職掌と心得 第27回～最終回：禅宗寺院内の小頭首の職掌
履修上の留意点	回数はいくまで目安なので、講義の進行状況により多少ズレを生ずる可能性がある。
成績評価の方法	価値観が現代とは大いに異なる部分もあるが、しっかりと見極め、振り回されないこと。 期末試験の成績に平常点を加味して評価する。なお、出席を取っている最中に入室した者を出席とし、それ以外は特別の事由がない限り欠席扱いとする。また、公欠届け・忌引き・病気等による欠席については、事前・事後に、学生番号と氏名、欠席理由を明記した文書を提出すれば考慮の対象にする。また、電車の遅れによって遅刻をした場合、講義直後に遅延証明書を持参して申し出ること。
教科書／テキスト	適宜配布する。
参考書	講義の中で適宜指示する。

履修コード	002701
科目名	禅籍講読III
担当者名	岩永 正晴

講義の到達目標(ねらい)	この科目は日本禅宗初期の典籍を講読するものである。また禅学科の選択必修科目であるので、これまで広く読まれてきた基本的な典籍を講読しなければならないと考える。よって本年度は道元禅師撰『学道用心集』を取り上げることとする。『学道用心集』は明治18年に定められた曹洞宗大学林専門学本校の授業科目でも宗部正講の初級に定められており、曹洞宗旨を学ぶためには必須の基本的な典籍とみなされてきた。この科目の目的に添うものと思う。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回 授業の概要の説明 第2回～第4回 『学道用心集』の解題(著者、成立、流布等の解説)。 第5回以降 『学道用心集』の講読。
準備学習	漢文で書かれた典籍を講読するので、漢文に慣れる努力をして、積極的に授業に望んで貰いたい。
履修上の留意点	紹介する参考書等は積極的に読んで貰いたい。
成績評価の方法	学年末に実施する試験(定期試験)によって成績評価を行う。
教科書／テキスト	テキストはコピーしたものを配布する。
参考書	授業中(第2回～第4回)にリストを配布し紹介する。主なものとしては、『道元禅師全集』第5巻(春秋社)、角田泰隆『道元入門』(大蔵出版)、大本山永平寺編『学道用心集の参究』(国書刊行会)、篠原寿雄『学道用心集—学習と修行のこころえ—』(大東出版)、『道元禅のあゆみ1』(吉川弘文館)等。

履修コード	006101 006102
科目名	禅美術
担当者名	村松 哲文

講義の到達目標(ねらい)	禅宗では、はじめ偶像を崇拜せず、自己の内面に仏性を悟ることを旨としていた。そのため仏像や仏画などが制作されることはなかったが、宋代になると僧侶たちが余暇に水墨画を描くようになり、これが宮廷の庇護を受けるなどして職業画家まで出現するようになる。描かれた題材は、山水・花鳥・祖師などで、これらを総称して禅絵画という。日本では、留学僧によって鎌倉時代に禅絵画が伝わり、ついには日本独自の水墨画を完成させた。本講義では、絵画を中心に話を進めるが、彫刻や墨蹟、庭園などについても触れてゆきたい。そして、作品に見え隠れする制作者の宗教性と美意識を考察したい。
講義の内容／ 授業スケジュール	講義ガイダンスと宋代の社会と仏教(1～3)、北宋の絵画(4～7)、南宋の絵画(8～11)、元の絵画(12～15)、鎌倉時代の絵画(16～19)、室町時代の絵画(20～23)、枯山水の庭園(24～25)、頂相彫刻(26～28)、禅宗の建築と美意識(29～30)
準備学習	図書館に行き、禅美術関連の書籍を何冊か読んでおくと、講義内容が理解しやすいと思うので、時間のあるときには是非通読しておいてほしい。
履修上の留意点	講義内容を留めるのみならず、講義の際に映スライドなどもしっかり観察すること。また美術館・博物館に行き、実物を観察する機会を多くつくること。
成績評価の方法	定期試験、出席率、レポートなどで総合的に評価する。
教科書／テキスト	プリントを配布する。
参考書	参考書・参考論文などは講義中に紹介する。

履修コード	008401
科目名	チベット語上級
担当者名	木村 誠司

講義の到達目標(ねらい) チベット語の仏教文献を読めるように、訓練する。チベット語は、日本語と親戚のような言語であるので、我々には理解し易い。本来は初級を習得した者が出席することが望ましいが、やる気があれば、未修得者でも一向にかまわない。簡単に読み進むのではなく、ゆっくり、熟読しながら進み、教義の理解を深めたい。中心テキストには、チャンキヤの『宗義書』を選んだ。本書は、極めて論理的なものとして、評価も高い。本年は毘婆娑師の章を講読する。重要なテーマは、チムの『俱舍論』注等も参照する。さらに、出典調べも出来るだけ綿密に行いたい。進むスピードは受講者に合わせる。チベット語は、チベット仏教に留まらず、インド仏教理解に関しても無視出来ない語学である。

講義の内容／ 授業スケジュール	第1回テキスト講読の実際の進め方や辞書について説明する。第2-3回実際にテキストを講読する。
準備学習	特にない。
履修上の留意点	受講者は、初級をマスターした者がベターであるが、そうでない者でもやる気があれば可である。
成績評価の方法	講義中の平常点で評価する。
教科書／テキスト	すべてコピーで配布する。

履修コード	008301
科目名	チベット語初級
担当者名	松本 史朗

講義の到達目標(ねらい) チベット語は、仏教思想の研究には不可欠な言語である。何故ならば、チベット語に訳された仏典、及び、チベット人仏教者が著した仏典を学ぶことがなければ、インド仏教の思想的研究は不可能であると、今日では考えられているからである。本講義のねらいは、このような仏教研究の目的のために、チベット語の文法を習得してもらうことである。

講義の内容／ 授業スケジュール	講義のスケジュールは、教科書に従い、(1~7)チベット文字の習得から、(8~23)名詞・形容詞・副詞・動詞・助詞・助動詞への説明へと進み、最後に、(24~28)簡単な読みもの(チベット人の著作)を読んで、文法の知識を確かなものとする。(29/30)まとめ
履修上の留意点	(授業初回に必ず出席すること) 第2回以降からの受講は学習上不可能である。チベット文字を習得するまで、困難ではあるが、頑張ってもらいたい。
成績評価の方法	年度末の試験により、成績を評価する。
教科書／テキスト	授業の中で指示する山口瑞鳳博士の文法書。出版された文法書は使用しないので注意。

履修コード	001901
科目名	チベット仏教史
担当者名	新井 一光

講義の到達目標(ねらい) チベット仏教史をその知的学問的伝統に力点をおいて概説する。チベット仏教は、インド仏教の影響を直接的に受け、その原語から自国語に翻訳された仏典を有する点だけでなく、その仏教哲学がインド中観派の空思想を伝える点でも今日の仏教研究において極めて重要である。中国仏教との対照的なあり方も見られる。講義では、チベット語資料が伝える仏教を学び、加えて、歴史の多彩さを理解することを目的とする。

講義の内容／ 授業スケジュール	講義のスケジュールは、ほぼ次の通りである。 1 オリエンテーション チベット仏教研究の意義、2 チベットと日本人、3 チベット建国神話、4-7 前伝期(吐蕃王国)における仏教、8-9 サムイェーの宗論、10 吐蕃王国の崩壊と仏教のゆくえ、11-12 後伝期 仏教の再興とアティシャの活躍、13-14 カダム派 弥勒の五法、15-16 中観派の流れ(自立派と帰謬派)、17 サキャ派、18 カギュー派、19 ニンマ派・埋蔵書、20 チョナン派、21~ ツォンカパとゲルク派
成績評価の方法	年度末の試験により成績を評価する。
教科書／テキスト	最初の授業において指示する。
参考書	山口瑞鳳『チベット』東京大学出版会、上巻、1987年、下巻、1988年。 松本史朗『チベット仏教哲学』大蔵出版、1997年。 その他、最初の授業において指示する。

履修コード	003511
科目名	中国古典語I
担当者名	吉村 誠

講義の到達目標(ねらい) 東アジアでは漢訳経典が「聖典」とされ、高僧の著作もほとんどが漢文で書かれている。本講義では、その中から名著を選んで講読する。仏教漢文の読み方に習熟するとともに、仏典を正確かつ批判的に読む力を養ってもらいたい。

講義の内容／ 授業スケジュール	本年度は『大乘起信論』を講読する。『大乘起信論』は大乗仏教の教義を如来蔵思想の立場から要約した書物である。馬鳴(1-2世紀)造、真諦(499-569)訳と伝えられるが、成立についてはインド撰述説や中国撰述説など諸説がある。確かなことは、本書が6世紀の中国に出現するや瞬く間に流行し、以後の東アジア仏教に絶大な影響を及ぼしたという事実である。本文は難解であるが、全文を精読する。 (1)『大乘起信論』概説、(2)帰敬偈、(3)造論の意趣、(4)衆生心(如来蔵・阿梨耶識)、(5~6)心真如、(7~9)心生滅(覚・不覚)、(10~11)生滅の因縁、(12~17)生滅の相(薫習)、(18)生滅門から真如門へ、(19)我見の対治、(20~23)発心(方便・六波羅蜜・法身)、(24)信心、(25~27)修行、(28)利益、(29)廻向偈、(30)まとめ
--------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

履修上の留意点	漢文訓読の予習をして授業に臨むこと。意味の分からない語句は、必ず漢和辞典や仏教辞典で調べること。
成績評価の方法	平常点を基本とする。必要に応じてレポートを課す。試験は行わない。
教科書／テキスト	プリントを使用する。
参考書	宇井伯寿・高崎直道『大乘起信論』岩波文庫 平川彰『仏典講座22 大乘起信論』大蔵出版 池田魯参『現代語訳大乘起信論』大蔵出版 その他、授業中に随時紹介する。

履修コード	008511
科目名	中国古典語II
担当者名	小川 隆

講義の到達目標(ねらい) 中国古典語(いわゆる『漢文』)読解の初歩的訓練を行う。「II」となっているが「I」よりも高度な教材をや
るわけではなく、基礎から順に学んでゆく。ただ、原文⇒訓読⇒解釈という通常の方法でなく、原文⇒字義と語法
の分析⇒解釈⇒訓読という順序で講義を行う。訓読で読むのではなく、語学的に読み解いた結果を訓読で表記す
る、という趣旨である。

**講義の内容／
授業スケジュール** (1)～(3) 下記の辞典の巻末・文法概説を使って、最も基礎的な語順・句型を学ぶ。
(4)～(10) 中国古典から短い散文を選読。下記辞典に多くの例文と「句法欄」が載っているため、それを利用
しながら文章を読み解き、中国古典語の字義と語法を学ぶ。
(11)～(15) 詩(いわゆる「漢詩」)の規則と解読法。平仄・押韻・対句など今体詩の基本形式を学ぶ。
(16)～(22) 仏典の選読。中古漢語の語彙と語法をふまえ、経論・僧伝などの読み方を学ぶ。
(23)～(30) 禅籍の選読。近代漢語の語彙と語法をふまえ、禅語録の読み方を学ぶ。語学的な解読からさらに問
答の思想内容の解読に進む。

履修上の留意点 毎回、予習と復習が必要。一回に読む量はごく少ないので、原文を手で書き写し、辞書をよくひいておくこと。
現代中国語の学習経験がある人は、中国語による音読にもぜひ挑戦してほしい。

成績評価の方法 毎回、輪読形式で行い、実際の読解水準をもとに平常点で評価する。定期試験は行わない。

教科書／テキスト 読解の材料はプリントで配布する。下記の辞典を常時使用するもので、必ず毎回持参のこと。
戸川・佐藤・濱口『全訳・漢辞海』第2版(三省堂) 2900円＋税 ISBN4-385-14046-4

参考書 小川隆『臨済録-禅の語録のことばと思想』(岩波書店) 2100円＋税 ISBN978-4-00-028284-0
同『神会-敦煌文献と初期の禅宗史』(臨川書店) 2600円＋税 ISBN978-4-653-03992-1
同『語録のことば-唐代の禅』(禅文化研究所) 2300円＋税 ISBN978-4-88182-225-8
同『続・語録のことば-《碧巖録》と宋代の禅』(禅文化研究所) 2000円＋税 ISBN978-4-88182-253-1

履修コード	002301
科目名	中国禅宗史
担当者名	石井 修道

講義の到達目標(ねらい) この講義は中国禅宗史を概観するものである。禅宗史を学ぶのに必要な資料にまず触れ、勉強の仕方も折りに触
れたい。具体的には、唐・五代・宋・元代の最も魅力ある禅者を一人一人禅宗史上で位置づける中で学んで行きたい。
年間、数限られた人数しか触れられないであろうが、しかし、できるだけ数多くの禅者に触れてみたい。特に
唐・五代を中心に①菩提達磨②二慧可③五祖弘忍④六祖慧能⑤青原行思⑥南嶽懷讓⑦石頭希遷⑧馬祖道一⑨薬山
惟儼⑩百丈懷海⑪雲巖曇晟⑫南泉普願⑬趙州從諗⑭滄山靈祐⑮黄檗希運⑯洞山良价⑰臨濟義玄⑱雪峰義存⑲玄沙師
備⑳雲門文偃及び法眼文益などを取り上げる。宋・元では、①芙蓉道楷②宏智正覺③圓悟克勤④大慧宗杲⑤中峰明
本などを取り上げる。興味ある行状はできるだけ触れるつもりである。

**講義の内容／
授業スケジュール** 教科書の『中国禅宗史話』を利用して講義を進めたい。

履修上の留意点 教科書の『中国禅宗史話』を読み、予備知識を付けておく。

成績評価の方法 夏期休暇後に提出された教科書の感想文(400字詰め10枚程度)のレポート20点と学年末の筆記試験80点で評価
する。出席は毎回取るので、成績には必ず出席数を考慮する。

教科書／テキスト 石井修道『中国禅宗史話』(禅文化研究所) 3,675円

参考書 石井修道『道元禅師 正法眼蔵行持に学ぶ』(禅文化研究所) 2,415円
小川 隆『語録のことば』(禅文化研究所) 2,415円
『禅学大辞典』(大修館書店)、入矢義高等『禅語辞典』(思文閣書店)。

履修コード	007401
科目名	中国哲学史
担当者名	前川 亨

講義の到達目標(ねらい) 東アジア世界において重要な精神的位置を占める中国の哲学・思想・宗教について概観する。

**講義の内容／
授業スケジュール** 本年度は先秦時代から唐代までの時代を取り扱う。この時代に、五経と呼ばれる儒教の経典が生み出され、仏教
が伝来し、また道教が成立した。まさに中国の思想の原型がここに形作られたのである。従って、この時代の諸思
潮を学ぶことは、中国の思想史全般を通観することにも繋がっていく筈である。講義の具体的な内容としては以下
のものを予定している。

- ・中国思想史を学ぶ意義
- ・孔子、孟子、荀子
- ・老子、荘子
- ・五経の成立
- ・陰陽五行説、時令思想
- ・易
- ・孝
- ・神仙思想、養生説
- ・死後世界
- ・仏教の中国伝来
- ・道教教団の成立
- ・老子化胡説
- ・敦煌
- ・六朝玄学
- ・新しい時代への胎動

それぞれについてどの程度時間を割くかは、受講者の関心なども考慮しながら決める。また、場合によってはこの
うちの幾つかを省略することもある。

履修上の留意点 受講生には継続的な出席と積極的な参加を求める。継続して出席する意志のない者、出席しても授業を集中して
聴く意志のない者の受講は認めない。

成績評価の方法 本年度は試験を実施する予定であるが、受講者数が少ない(目安として10人以下)の場合には平常点とレポート
に切りかえるかも知れない。いずれにしても出席はとり、出席回数の足りない学生には試験受験もしくはレポート
提出の資格を与えない。

教科書／テキスト 特に必要としない。

参考書 授業中に適宜紹介する。

その他 できるだけ多くの知識を提供するため、講義の形式をとるが、受講者の意見を徹しながら進めていくので、質問
には積極的に応答してもらいたい。中国(東アジア)の社会・文化・宗教など様々な方面に関心をもつ諸君の受講
を期待する。

履修コード	002001
科目名	中国仏教史
担当者名	吉村 誠

講義の到達目標(ねらい) 中国仏教の歴史を、仏教伝来から現代に至るまで概説する。中国は仏教という外来の思想・文化をどのように受容したのか。また、韓国や日本が手本とした中国独自の仏教はどのように形成されたのか。政治・社会・教理・信仰など、さまざまな角度から考察したい。

講義の内容／授業スケジュール (前期) (1) 仏教の中国伝播 (2) 後漢の仏教 (3) 魏晉の仏教 (4) 仏教受容の背景 (5) 五胡十六国の仏教 (6) 鳩摩羅什の翻訳 (7) 東晉の仏教 (8) 南朝の仏教 (9) 儒教・道教との交渉 (10) 北朝の仏教 (11) 諸学派の興起 (12) 隋の仏教 (13) 天台と三論 (14) 疑經の作成 (15) まとめ (後期) (1) 唐の仏教 (2) 玄奘の翻訳 (3) 唯識と華嚴 (4) 律と密 (5) 浄土と禪 (6) 五代・十国の仏教 (7) 北宋の仏教 (8) 南宋の仏教 (9) 大蔵經の出版 (10) 遼・金・西夏の仏教 (11) 元の仏教 (12) 明の仏教 (13) 清の仏教 (14) 中華民国・中華人民共和国の仏教 (15) まとめ

履修上の留意点 授業は講義形式なので、ノートを準備すること。

成績評価の方法 出席状況と試験結果を総合して評価する。

教科書／テキスト 未定。初講時に指示する。

参考書 野上俊静・他『仏教史概説 中国篇』平楽寺書店
鎌田茂雄『中国仏教史』岩波全書
その他、授業中に随時紹介する。

履修コード	004301
科目名	中国仏教思想史
担当者名	吉津 宜英

講義の到達目標(ねらい) 中国仏教思想史の目標を示すには、中国仏教史との違いを明らかにしなくてはなりません。学問は、何故という問い(問題意識)、何を(研究対象)、どのように(研究方法論)の三つの問いを中心に展開します。また「何を」の問いに関わることで、事実を明らかにする事実判断と、研究対象の真偽、善悪や是非を決着する価値判断とを弁別しなくてはなりません。仏教史は事実判断に徹する歴史研究の成果が扱われます。それに対して、思想史は研究者、あるいは教授者の価値判断も無視できないのです。思想史とは何かをめぐっては哲学的な書物があります。単に過去の中国の仏教を扱うのではなく、講義を行う私自身の仏教観も問われるのです。また中国仏教が研究対象であり、しかも思想史ですから、中国の他の宗教や思想も仏教と対等な立場で扱い、それらの交流、対処、論争、融合などの様々な面を見てゆかなくてはなりません。そして思想史ですから、研究対象と、私自身の人生観・仏教観・思想が対峙し、緩やかに言えば相互に対話的に、厳しく言えば相互に論争的に研究が進められることとなります。皆さんは事実に中国とは全く異質な文化的背景の中で生まれたインド仏教が、中国の思想風土の中で、いかに中国仏教となっていくのかをまず学んで下さい。そしてそのような中国仏教に思想的に関わるとは、どのような研究方法論になるのかという私自身の一つの研究モデルを考察していただきたいと思います。

講義の内容／授業スケジュール 前期の第1回目はガイダンスです。仏教伝来時代の中国の思想状況(2回目)。仏教の受容と仏教への批判(3, 4回目)。大乘はなぜ中国ではメジャーになったのか(5, 6回目)。神滅不滅の論争(7, 8回目)。北魏の仏教と破仏(9, 10回目)。北周の破仏の意義(11, 12回目)。唐時代の三教交渉(13, 14回)、玄奘の大翻訳の意義(15回目)。後期第1回目は禅宗を中国思想史の立場から論じます。宋代仏教と朱子学(2, 3回目)。チベット仏教をどう考えるか(4, 5回目)。明代の三教交渉(6, 7回目)。清代の考証学と仏教(8, 9回目)。清末から中華民国時代の革命思想と仏教(10, 11回目)。15年戦争時代の中国仏教と日本仏教界の動向(12回目)。中華人民共和国の成立と仏教(13回目)。文化大革命と仏教(14回目)。現在の中国の宗教状況、特にイスラーム勢力の動向(15回目)。これらの題目は大いに変更の可能性が有りますが、私が少なくとも扱わなくては行けないと考えているものです。回数にも削減、増加が有り得ることを了解して下さい。

準備学習 世界史年表により、中国の王朝の交代の流れは確認して下さい。また高校で習ったレベルの中国史の大きな出来事はあらかじめ何らかの方法で認識する努力をお願いします。

履修上の留意点 この科目専用のノートを用意して下さい。講義内容を筆記すると共に、自分の意見や疑問を書きとめ、年間を通して受講と自分の思索の軌跡が残るようにして下さい。出来ればこの講義には世界史年表を携帯することを希望します。

成績評価の方法 出席を取ります。最後に期末テストを行います。それらを総合して評価します。

教科書／テキスト テーマごとに随時資料を配布します。

参考書 講義の際にテーマに即して参考書や論文などを随時紹介します。

その他 私が講義している最中でも挙手して、質問や意見を述べて下さい。私語は厳禁です。講義開始時間から30分過ぎている時は自主的に教場への入室はご遠慮下さい。

履修コード	003901 003902
科目名	中国仏教文化史
担当者名	程 正

講義の到達目標(ねらい) インドで成立した仏教は中国においてどんな軌跡を描きながら受容され、そして自らのすがたを変えながら中国人の宗教として展開していったのか。こうした問題を意識しつつ、講義を進めていきたい。

講義の内容／授業スケジュール ガイダンスを兼ねて、中国仏教文化のすがたとかたちについて考える(6~7回)。中国仏教史上における破仏、いわゆる「三武一宗」の法難について講義するとともに、『父母恩重經』をはじめとする中国で撰述された偽經も紹介し、これらの偽經の出現の文化史的意義を考える(15~16回)。仏典漢訳、写經、經典印刷、大蔵經の編纂など、いわゆる仏教經典の流布に促された仏教文化の発達について考える(7~8回)。

履修上の留意点 資料を沢山配布するので、専用のノート、あるいはファイルを用意すること。

成績評価の方法 夏休みの課題レポート(20%)、出席状況(20%)、期末試験(60%)を総合して評価する。

教科書／テキスト プリント配布。

参考書 授業中適宜指示する。

履修コード	002101
科目名	朝鮮仏教史
担当者名	福士 慈稔

講義の到達目標(ねらい)	仏教伝来から現代に至るまでの朝鮮仏教を、東アジア仏教文化史の観点から概説し、インド、中国、日本などの仏教との共通点とその独自性を考えます。
講義の内容／ 授業スケジュール	以下の内容を授業日数に配分し、第3回目からは授業初に前回収の質問に答え、次いで当日の講義内容を日報の最新の研究成果を紹介しながら講義します。 第1回:イントロダクション・朝鮮仏教研究の意義とその手法 第2～6回:三国時代の仏教 第7～13回:統一新羅時代の仏教 第14～19回:高麗時代の仏教 第20～25回:朝鮮時代の仏教 第26～30回:韓国近現代の仏教
準備学習	第2回目から、毎回授業終了10分前に小レポートとして、当日の授業のまとめ、授業内容に対する自身の感想、授業内容に対する質問等を書いてもらいますので、参考書等で当日の授業内容について予習しておいて下さい。
履修上の留意点	朝鮮仏教理解のためには、中国仏教・日本仏教の知識、儒教・道教の知識も必要となります。授業中にその都度、参考資料・論文等を紹介しますので、自分から積極的に授業に参加するようにして下さい。また受講に際しては、懐疑的、批判的姿勢を以て疑問を抱くことを望みます。
成績評価の方法	毎回行う小レポートと学期末各1回のレポートによる。評価に占める小レポートの割合は50%、学期末レポート50%(前後期各25%)
教科書／テキスト	基本的に参考書の内容をパワーポイントに反映させる形式で授業を行います。
参考書	石井公成編『新アジア仏教史10 朝鮮半島・ベトナム－漢字文化圏への広がり』(佼成出版社)4,200円、ISBN 9784333024384

履修コード	007601
科目名	哲学概説
担当者名	杉田 正樹

講義の到達目標(ねらい)	哲学の基本的な考え方を概説し、また哲学のおおまかな歴史を通覧して、哲学の全体像をつかむことを目指す。前期の講義を踏まえて、後期ではわれわれが生きている現代という時代を哲学の観点から考える。これによって現代固有の問題と、歴史を通じて変わらない問題を見ることになる。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1)はじめに、哲学入門への入門、(2、3)人生観、世界観と哲学、(4～6)哲学の分野と方法、(7、8)東洋の知恵、(9～11)古代哲学から中世哲学へ、(12、13)近代哲学、(14)存在と知識、(15)まとめ、(16)はじめに、現代という時代、(17～19)科学・技術と自然、(20～22)内面性の問題、(23)善と悪、(24)苦悩について、(25、26)情念の問題、(27)死と生、(28)歴史について、(29)宗教について、(30)まとめ
履修上の留意点	テキストを読んでくることを前提として、教室では議論をすることにしたい。また、課題図書を指定し、それについても議論する。レポートの書き方も指導する予定である。
成績評価の方法	学期末に試験をするか、あるいはレポートを課す。また、出席も考慮する。
教科書／テキスト	渡辺二郎『はじめて学ぶ哲学』2005年刊、ちくま学芸文庫(筑摩書房)1,260円、ISBN-10:4480089055

履修コード	003401
科目名	日用経典
担当者名	飯塚 大展

講義の到達目標(ねらい)	前期は『般若心経和談抄』を読解し、後期は室町時代五山僧の註釈書『蕉了記』を通して『首楞嚴經』を読解することを目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	『般若心経』の概説(註釈史概説、1～5)、『般若心経和談抄』(江戸時代版本)の読解(6～15)、『首楞嚴經』概説(16～18)『蕉了記』の読解(五山版について、五山における『首楞嚴經』の受容、19～30)。
履修上の留意点	本講義専用のノートを準備すること。
成績評価の方法	三分の二以上の出席数を前提とする。平常点(30点配分)と期末試験(70点)を以て評価する。
教科書／テキスト	教科書は用いない。適宜プリントを配布する。
参考書	参考書は第2回目の講義及び概説において紹介する。

履修コード	005501
科目名	日蓮教学概論
担当者名	原 慎定

講義の到達目標(ねらい)	前期では、日蓮の生涯をたどりながら「法華経の行者」としての内面的意識に着目し、その行動理念の特色について考察する。後期では、日蓮の代表的著作の一篇『立正安国論』を講読し、どのような目的で本書を執筆して幕府に建白したのかをたずね、日蓮が予言者として捉えられる側面についても考察する。あわせて日蓮の批判精神の真意を理解し、自らの仏教観を問い直す上での一助とすることを目標とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	以下の内容を実際の授業日数に配分して講義する。 第1回:総論「法華経の行者」としての生き方 第2～3回:幼少期からの問題意識 第4回:仏法受容の基本姿勢 第5回:信仰告白としての立教開宗 第6回:『立正安国論』の建白 第7回:伊豆流罪と「五義」教判の表明 第8回:小松原法難と「法華経の行者」自覚 第9回:蒙古国書の到来 第10回:龍口法難と佐渡流罪 第11～12回:『開目抄』と『観心本尊抄』 第13回:鎌倉から身延へ 第14回:『撰時抄』と『報恩抄』 第15回:身延下山と池上入滅 第16～17回:『立正安国論』撰述の由来 第18～19回:『立正安国論』の構成と概要 第20～30回:『立正安国論』の講読(第1段～第10段)
準備学習	配付プリントおよびテキストを事前に読んでおくこと。
成績評価の方法	出席状況と授業内に提出を求める課題を勘案した平常点と、レポート(夏休みと学年末の2回)によって評価する。評価に占める平常点の割合は40%、レポートの割合は60%とする。
教科書／テキスト	前期:「日蓮の生涯」「日蓮年表」(宮崎英修編『日蓮辞典』所収)のプリントを配付 後期:北川前肇編『原文対訳 立正安国論』大東出版社、1,890円、ISBN4-500-00648-6
参考書	原慎定著『日蓮教学における罪の研究』平楽寺書店、ISBN4-8313-1042-5

履修コード	002401
科目名	日本禅宗史
担当者名	佐藤 秀孝

講義の到達目標(ねらい) 本講座は、日本における禅宗の歴史を講義するものである。唐・宋代に隆盛した中国禅宗がどのように日本に伝来し、如何なる展開・発展を遂げて日本禅を形成していったのか、その過程を探ることで、思想的な意義と日本文化への影響などを論じたい。

講義の内容／授業スケジュール 前期には、唐代禅宗について、平安以前の禅、宋代禅宗の伝来、栄西と能忍、兼修禅の系譜、道元の活動、初期永平寺僧団、来日僧と入宋入元僧、日本禅の二十四流などについて論じ、後期には、五山派と林下、五山禅林と五山文学、中世文化と禅宗、瑩山紹瑾と曹洞宗の地方展開、応燈閣の一流、戦国時代と禅僧、幕藩体制下の禅宗、隠元の来日と黄檗宗、近世臨済宗と白隠禅、近世曹洞宗と宗統復古、近代国家と禅宗などについて論じる。

履修上の留意点 禅の教理や思想の理解および日本史の一般的な知識を習得しておくこと。

成績評価の方法 平常点（出席）と試験による総合評価。

教科書／テキスト 伊吹敦『禅の歴史』（法蔵館）3,800円
中尾良信『図解雑学・禅』（ナツメ社）1,400円

参考書 田中良昭編『禅学研究入門』（大東出版社）6,000円
船岡誠『日本禅宗の成立』（吉川弘文館）2,500円
その他、日本禅宗に関する諸文献

履修コード	007411
科目名	日本哲学史
担当者名	久保 陽一

講義の到達目標(ねらい) 日本人は、古代以来の「清明心」、仏教の「無我」、儒教の「誠」などを大切にしてきたといわれるが、「哲学」は明治始めに西洋から初めて導入された。福澤や西は封建制度とその精神的支柱となった儒教を批判し、自由・平等・法治国家、科学技術などを欧米から摂り入れようとした。しかし、その際、既に徳川時代に展開していた日本的儒学を考え方や言葉が、彼らの西洋哲学受容の受け皿になったという面も見逃せない。さらに、新渡戸、鈴木、西田などは西洋とは異なる日本独自の精神や文化を強調するようになり、九鬼、和辻、三木はハイデガーの影響を受けつつも、独自の解釈学的思想を展開した。最近「グローバル化」と「文明の多元化」が語られる中で、日本の哲学があらためて問い直されている。そこで近代日本の代表的な哲学の思想を紹介し、その流れを捉え、その意義と問題点を考えることにしたい。

講義の内容／授業スケジュール 福澤諭吉、西周、内村鑑三、新渡戸稲造、井上哲次郎、井上円了、西田幾太郎、鈴木大拙、和辻哲郎、九鬼周造、三木清、戸坂潤、丸山真男を取り上げ、彼らが日本の近代化にどのように関わり、西洋哲学との関連でどのように独自の思索を展開したか、またそれは今日どのような意味を持つかを考えることにする。

履修上の留意点 講義を手掛かりに、自分でさらに原典や参考文献を読むことが望ましい。

成績評価の方法 試験（前期と後期）と出席によって評価する。

教科書／テキスト 個々の哲学者の文章を資料として配布する。

参考書 相良亨「日本人の心」（東大出版会）
丸山真男「日本政治思想史研究」（東大出版会）

履修コード	002201
科目名	日本仏教史
担当者名	飯塚 大展

講義の到達目標(ねらい) 日本仏教史の枠組みを概説する。

講義の内容／授業スケジュール (1)日本において仏教がいかに受容されたのかを、時代の変遷と仏教の変容を中心に概説する。
(2)①古代仏教史（飛鳥・奈良・平安時代の仏教、中世仏教への胎動、1～12）、②中世仏教史（中世仏教史の枠組、顕密体制論、黒衣白衣論、顕密仏教の展開、13～23）、③近世仏教史（幕藩体制下の仏教、寺檀制度、各宗宗学の発達、三教一致批判、24～28）
④近代仏教史（近代天皇制下の仏教、29～30）

準備学習 日本仏教史に関する一般的な知識を前提とする。少なくとも松尾剛次『仏教入門』（岩波ジュニア新書）、末木文美士『日本仏教史』を読了して欲しい。

履修上の留意点 本講義専用のノートを準備すること。

成績評価の方法 三分の二以上の出席を前提とする。平常点（30点配分）と期末試験（70点）を以て評価する。

教科書／テキスト 教科書は用いない。適宜プリントを配布する。

参考書 参考書は第二回目の講義及び各時代仏教史の概説の際に提示する。

履修コード	004001 004002
科目名	日本仏教文化史
担当者名	藤井 淳

講義の到達目標(ねらい)	日本における仏教の役割について、外国との関係および建築・美術や文学・風習など文化面に焦点を当てながら理解を深める。
講義の内容／ 授業スケジュール	(前期) 1 インTRODクション, 2 現代と日本仏教文化, 3 古墳時代・飛鳥時代, 4 白鳳時代, 5~6 奈良時代(対外関係・東大寺と正倉院), 7~10 平安時代(遣唐使と国風文化・源氏物語・平家納経・奥州平泉・総説), 11~14 鎌倉時代(元寇と禅僧・総説), 15 前期総説 (後期) 16 視聴覚資料, 17 南北朝時代, 18~20 室町時代(能・茶・建築), 21 神道と仏教 22 戦国時代, 23 安土桃山時代, 24 キリスト教と仏教, 25~26 江戸時代, 27 明治, 28 大正・昭和, 29 現代, 30 総説 以上は進行の目安であって、適宜前後することは了承されたい。なお日本史の授業ではなく、該当する時代の仏教文化に焦点を当てたものである。
準備学習	授業で該当する時代を、授業の前に参考書を含めて、ネットなどでも情報を積極的に集めることで知識を深めておくことで授業の内容がより血肉化するので予習を心がけること。
履修上の留意点	日本史に関する全般的な流れ(細かい知識は問わない)を前提として講義するので、日本史の知識が不十分なものは授業で該当する時代の『詳説日本史研究』(佐藤信編集、山川出版社、2500円)もしくは高校時代の日本史の教科書を読んで予習しておくこと。
成績評価の方法	出席状況を考慮しつつ、基本的には学年末の定期試験によって評価する。その他に仏教文化を実際に見聞した体験をレポートとして提出してもらう。
教科書／テキスト	資料集として『山川日本史総合図録』(笹山晴生、石井進 他、山川出版社、730円)を用いる。教科書は指定しないが以下の参考書を読んでおくこと。
参考書	松尾剛次『仏教入門』(岩波ジュニア新書、861円) 末木文美士『日本仏教史』(新潮文庫、620円)
その他	学生時代は能や文楽など日本の伝統芸能を約半額の料金で楽しめる時期である。公演などを授業中に適宜案内するが、受講者はそれらを積極的に鑑賞して伝統文化と現代の関わりについて考えてほしい。また急速に消え去りつつある地方の伝統文化についても時間に余裕のある大学生時代に大いに触れてほしい。

履修コード	008201
科目名	パーリ語上級
担当者名	古山 健一

講義の到達目標(ねらい)	1. パーリ語の文法及び語彙についての高度な知識を身につけ、インド仏教研究ないしパーリ伝統仏教の理解に不可欠な、パーリ註釈文献の読解力を養う。 2. 読解に用いるパーリ文テキストに、ローマ字本以外のテキスト(特にミャンマー第6回結集版)をも使用し、異字本の参照能力を身に付ける。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期及び後期前半は、[1] ミャンマー(ビルマ)文字による第6回結集版の正しいローマナイズのしかた、[2] パーリ語の音韻規則・連声法、接尾辞(造語法も含む)、接頭辞、複合語、格の用法、構文法について学習する。 後期後半は、[3] 文献の読解を通して上級文法を実践的に習得することに力を置く。読解するテキストには、H. C. Norman校訂のパーリ文献協会(PTS)版およびミャンマー第6回結集版による、『ダンマパダ(法句)』の註釈書『ダンマパダ・アッタカター』(第6章「賢者の章の註」以下)の物語を用いる予定である。
準備学習	受講にあたっては、パーリ語初級の履修を終えているか、または、これに相当する学習経験を有していることが望ましい(サンスクリット語初級の履修以上も含む)。
履修上の留意点	毎回の授業の学習事項を復習することを常に心がけること。文献の読解は演習形式の授業を進めるので、その際は、必ずテキストの下訳作りなどをしておくこと。
成績評価の方法	授業への出席状況と学習意欲により評価する(定期試験は実施しない)。
教科書／テキスト	すべてプリントで配布する。
参考書	水野弘元『増補改訂パーリ語辞典』(春秋社)、4725円、ISBN439310156-1; 水野弘元『パーリ語文法』(山喜房佛書林)、3150円、ISBN4796300104
その他	初回の授業で受講と成績評価についての説明をおこなうので、必ず出席すること。

履修コード	008101
科目名	パーリ語初級
担当者名	片山 一良

講義の到達目標(ねらい)	パーリ語は、原始仏教を学ぶ者にとって不可欠な「聖典語」である。パーリ語文法の確実な習得につとめ、仏典の正しい読解をめざしたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	前半は文法全体について講義し、後半は中部第117『大四十経』(Mahācattārisaka-sutta)を講読する。
準備学習	予習と復習が求められる。
履修上の留意点	一つ一つ、丁寧に学び、習得することが望まれる。
成績評価の方法	年度末テスト、および平常点による。
教科書／テキスト	とくに使用しない。随時、資料プリントを配布する。
参考書	水野弘元『パーリ語辞典』(春秋社)
その他	随時、テープ等を使用する。

履修コード	001801
科目名	パーリ仏教史
担当者名	矢島 道彦

講義の到達目標(ねらい) 仏教はその淵源をたどれば、古代の東インドに胚胎した沙門系の宗教に由来しています。すでにブッダの在世中に教団はある程度大きく成長していましたが、その教線が飛躍的に拡大したのは、なんといってもマウリヤ王朝の第三代帝王アショーカ王の時代でした。このマウリヤ王朝期に、当時有力な部派の一つであった上座部系の仏教がスリランカに伝えられて、その後、タイ、カンボジア、ミャンマー、ラオスなどの諸地域にもたらされることとなりました。ここで「パーリ仏教史」というのは、地域的にはこうした南アジアや東南アジアの国々を中心として行われてきた、いわゆる上座〔部〕仏教（テーラヴァーダ仏教）の歴史という意味です。いずれもパーリ語聖典を所持しているという意味で、これらの地域に展開した仏教をパーリ仏教と呼ぶこともできるわけです。インド本土ではやがて仏教は滅びてしまいますが、周辺地域に広く伝えられて、かたや北伝の大乗仏教として、かたや南伝のテーラヴァーダ仏教として、大きく花開いていきました。幾多の消長を繰り返しながらも、今日にまで伝えられてきたテーラヴァーダ仏教の歴史を、ここではさまざまな角度から辿ってみたいと思います。

- 講義の内容／授業スケジュール**
- (1) はじめに ～「パーリ仏教」のとらえ方～
 - (2) 沙門系の諸宗教と仏教
 - (3) 図像にみるブッダの生涯（スライド）
 - (4) スリランカの古都を訪ねて（スライド）
 - (5) ブッダの用いた言語とパーリ語
 - (6) 繰り返される結集（聖典の編纂史）
 - (7) 聖典と非聖典
 - (8) 九分教とパーリ文学
 - (9) 福田思想の歴史的展開
 - (10) 出家教団と在家の人々
 - (11) 出家の修道論と少欲知足
 - (12) パリッタとはなにか
 - (13) マヒンダ長老とマハーヴィハーラ派
 - (14) アバヤギリ派と大乗仏教の影響
 - (15) 仏歯をめぐる争いと法顕の報告
 - (16) 学匠ブッダゴーサとその学統
 - (17) 仏滅年代とスリランカの王統史
 - (18) 密教の隆盛と伝統仏教の対抗
 - (19) スリランカ仏教の苦難の歴史
 - (20) ビルマの仏教①
 - (21) " ②
 - (22) タイの仏教①
 - (23) " ②
 - (24) カンボジアの仏教①
 - (25) " ②
 - (26) ラオスの仏教
 - (27) その他諸地域におけるテーラヴァーダ仏教
 - (28) 現代におけるテーラヴァーダ仏教①
 - (29) " ②
 - (30) まとめ

履修上の留意点 受講者数にもよりますが、一方的な講義ではなく、参加型の授業にしたいと思います。そのつもりで臨んで下さい。

成績評価の方法 平常点とレポート（または試験）によって総合的に評価します。

教科書／テキスト 使用しません。

参考書 講義のなかで適宜紹介します。

履修コード	001101 001102
科目名	仏教・禅教団論 禅学研究III
担当者名	熊本 英人 吉津 宜英

講義の到達目標(ねらい) 本講座では前期は仏教の教団論を扱い、後期は禅宗の教団論を講義する。宗教は教義(思想)、儀礼(修行)、教団(集団)の三つの視点から把握することができる。教義と儀礼は個人的立場からだけで取り扱うこともできるが、教団は宗教集団であり、個人的ではなく、そして宗教の社会的存在の意義を問うものである。キリスト教などの教会を中心とした教団と、仏教のそれとの違いはどうか。
 釈尊は『スッタニパータ』『犀の角』において「ひとり歩め」と言っている。『律蔵』『大品』で釈尊の弟子たちが60人になった時、彼は集団で修行することから、それぞれ各自に伝道教化の旅に出るように勧め、「一つ道を二人で行くな」と言って、それぞれ各自の独自の道を歩むことを教えながらも、その目的は「多くの人々の福利・安楽・憐愍のために」と言い、世間の人々を忘れてはいない。一方、禅宗教団は、集団生活の必要上から律に反する行為に対して、清規という新たな修行規範を設け、それに「思想」としての意味を与えていく。
 この講義では、自覚の宗教と言われる仏教、そして禅宗において、内部的には修行の面で教団がいかに機能するか、また対外的には仏教の社会性、教団がどのように形成され、それによって仏教の目指す理想が実現できたのか、あるいは問題点があるのかを、資料を講読しながら、皆さんと共に考えて行きたい。

講義の内容／授業スケジュール 前期(仏教教団論)：
 1 この講義の目指すもの
 2～5 釈尊の教団の形成、『律蔵』『大品』の講読
 6～8 『律蔵』の概観
 9 『四分律』と比較検討
 10～11 大乘の戒律について
 12～ 日本の教団と戒律
 後期(禅教団論)：
 1～2 禅宗の成立と清規
 3～4 『禅苑清規』の構成と禅宗教団の様相
 5～7 『禅苑清規』講読
 8～9 『永平清規』の構成と道元僧団の意図
 10 『永平清規』と『瑩山清規』からみた曹洞宗教団の展開
 11～ 『永平清規』講読

履修上の留意点 仏教研究IIIと禅学研究IIIとを同じ年度に履修することは認めない(2007年度以前入学生)。
成績評価の方法 前期と後期との両範囲にわたる筆記試験を、1月の「専門・教職科目の定期試験」の日時に従って1回行う。出席状況など平常点とあわせて評価する。
教科書／テキスト 前期：上座部の『律蔵』、『四分律』、『梵網経』などをコピーして配布する。
 後期：鏡島元隆他『訳注禅苑清規』(曹洞宗宗務庁、1972年)《必要部分をコピーで配布する》
 小坂機融他『道元禅師全集第6巻 清規・戒法・嗣書』(春秋社、1989年)《必要部分をコピーで配布する》
参考書 講義中に必要に応じて紹介する。

履修コード	001501 001502
科目名	仏教・禅教団論 仏教研究III
担当者名	熊本 英人 吉津 宜英

講義の到達目標(ねらい) 本講座では前期は仏教の教団論を扱い、後期は禅宗の教団論を講義する。宗教は教義(思想)、儀礼(修行)、教団(集団)の三つの視点から把握することができる。教義と儀礼は個人的立場からだけで取り扱うこともできるが、教団は宗教集団であり、個人的ではなく、そして宗教の社会的存在の意義を問うものである。キリスト教などの教会を中心とした教団と、仏教のそれとの違いはどうか。
 釈尊は『スッタニパータ』『犀の角』において「ひとり歩め」と言っている。『律蔵』『大品』で釈尊の弟子たちが60人になった時、彼は集団で修行することから、それぞれ各自に伝道教化の旅に出るように勧め、「一つ道を二人で行くな」と言って、それぞれ各自の独自の道を歩むことを教えながらも、その目的は「多くの人々の福利・安楽・憐愍のために」と言い、世間の人々を忘れてはいない。一方、禅宗教団は、集団生活の必要上から律に反する行為に対して、清規という新たな修行規範を設け、それに「思想」としての意味を与えていく。
 この講義では、自覚の宗教と言われる仏教、そして禅宗において、内部的には修行の面で教団がいかに機能するか、また対外的には仏教の社会性、教団がどのように形成され、それによって仏教の目指す理想が実現できたのか、あるいは問題点があるのかを、資料を講読しながら、皆さんと共に考えて行きたい。

講義の内容／授業スケジュール 前期(仏教教団論)：
 1 この講義の目指すもの
 2～5 釈尊の教団の形成、『律蔵』『大品』の講読
 6～8 『律蔵』の概観
 9 『四分律』と比較検討
 10～11 大乘の戒律について
 12～ 日本の教団と戒律
 後期(禅教団論)：
 1～2 禅宗の成立と清規
 3～4 『禅苑清規』の構成と禅宗教団の様相
 5～7 『禅苑清規』講読
 8～9 『永平清規』の構成と道元僧団の意図
 10 『永平清規』と『瑩山清規』からみた曹洞宗教団の展開
 11～ 『永平清規』講読

履修上の留意点 仏教研究IIIと禅学研究IIIとを同じ年度に履修することは認めない(2007年度以前入学生)。
成績評価の方法 前期と後期との両範囲にわたる筆記試験を、1月の「専門・教職科目の定期試験」の日時に従って1回行う。出席状況など平常点とあわせて評価する。
教科書／テキスト 前期：上座部の『律蔵』、『四分律』、『梵網経』などをコピーして配布する。
 後期：鏡島元隆他『訳注禅苑清規』(曹洞宗宗務庁、1972年)《必要部分をコピーで配布する》
 小坂機融他『道元禅師全集第6巻 清規・戒法・嗣書』(春秋社、1989年)《必要部分をコピーで配布する》
参考書 講義中に必要に応じて紹介する。

履修コード	000101 000102 000103
科目名	仏教学入門 禅学序説 仏教学序説
担当者名	岩永 正晴

講義の到達目標(ねらい) この授業は、仏教学部における4年間の修学の導入となることを意図し、仏教の基礎知識を身につけて貰うために開講されています。まず釈迦牟尼仏・道元禪師・瑩山禪師の「一仏両祖」のご生涯と教え紹介し、その後、インド・中国・日本における仏教の歴史について概説します。

講義の内容／授業スケジュール (1) 授業の概要の説明、(2～5) 釈迦牟尼仏の伝記と教え、(6～9) 道元禪師の伝記と教え (10～13) 瑩山禪師の伝記と教え、(14～18) インドにおける仏教、(19～24) 中国における仏教、(25～30) 日本における仏教。

履修上の留意点 必修科目なので安易に欠席することなく、積極的に参加して貰いたい。

成績評価の方法 授業期間中に行う試験(前後期各2回づつの計4回)、及びレポート(2回)によって成績評価を行う。

教科書／テキスト 教科書として特定の書物は用いない。配布資料に基づき授業を進める。

参考書 松尾剛次『仏教入門』(岩波書店、岩波ジュニア新書322) 780円
 平川彰『仏教通史(新版)』2006年刊(春秋社) 2,940円
 柏木弘雄『ぼんブックス 仏教思想史ノート』1995年刊(世界聖典刊行会) 1,470円
 松尾剛次『「お坊さん」の日本史』(日本放送出版、生活人新書041) 693円
 末木文美士『日本仏教史—思想史としてのアプローチ』(新潮社 新潮文庫す-13-1) 560円
 大法輪閣編集部『日本仏教十三宗ここが違う』1998年刊(大法輪閣) 1,890円
 大久保良峻『新・八宗綱要—日本仏教諸宗の思想と歴史』2001年刊(法蔵館) 3,570円
 柳田聖山『禅思想 中公新書400』(中公論社) 660円
 伊吹敦『禅の歴史』2001年刊(法蔵館) 3,990円
 石川力山『禅宗小事典』(法蔵館) 2,400円
 田中良昭『禅学研究入門【第二版】』(大東出版社) 3,600円
 田上太秀・石井修道『禅の思想辞典』(東京書籍) 12,000円
 その他は授業中に随時紹介します。

履修コード	000201 000202 000203
科目名	仏教学入門 禅学序説 仏教学序説
担当者名	片山 一良

講義の到達目標(ねらい) 仏教の教えと実践について正しく理解すること、これが本講義のねらいである。仏教の学びには、大きく「三蔵(経・律・論)の学び」と「三学(戒・定・慧)の学び」がある。三蔵法師になる学びと、阿羅漢になる学びとあってよい。これに対して、大学における仏教の学びには、基本的には「歴史と文化の学び」と「教理の学び」が考えられる。どちらも重要な学びであるが、前者は変化を受け易いもの、後者は変化を受け難いもの、といえる。本年は、「教え」を中心に、前者を前半に、後者を後半に扱うこととした。

仏教は、2500年もの長い歴史をもっている。また、インドからスリランカ、ミャンマー、タイなど南方のアジアには「上座部仏教」として、またチベット、中国、朝鮮、日本など北方のアジアには「大乘仏教」として伝播し、多様な仏教文化が展開してきた。とくに日本では数多くの宗派が存在し、様々な仏教の様相を呈していることは誰も認めるところである。しかし、仏教は仏の教えであり、根本的に一つであって、異種多様なものではない。一つの教え、一つの法があり、それが八万四千、無数のお経となったものである。その一つとは智慧と慈悲であり、寂靜という心の静まりにほかならない。それはまた、言葉を換えれば禅である。そこで、この「仏教学入門」では、よく知られたお経、仏典をとおして、また禅の語録にも触れつつ、「仏教とは何か」を考え、とくに「智慧と慈悲」について理解が深まるよう、努めたい。

講義の内容／授業スケジュール 前期は、仏教の歴史と文化を主に、①仏教の学問と信仰、②客観と主観、③聖と俗、④文化の帯、⑤仏教の分類、⑥仏の伝統、⑦天上天下唯我独尊、⑧出家と修行、⑨成道、⑩説法、⑪法と律、⑫涅槃、⑬正法について講じることとした。

後期は、仏教の教理と実践を主に、①信仰と智慧、②仏、③法、④僧、⑤四法印、⑥五蘊説、⑦縁起説、⑧四諦説、⑨八正道と中道、⑩慈悲、⑪色即是空、⑫身心脱落、⑬仏法について講じたい。

履修上の留意点 専用のノートを用意し、講義内容をよくまとめてほしい。

成績評価の方法 レポート(夏期)、および年度末テストによる。

教科書／テキスト とくに使用しない。随時、資料プリントを配布する。

参考書 片山一良『ブツダのことは パーリ仏典入門』(大法輪閣)
 『ダンマパダ 全詩解説 一仏祖に学ぶひとすじの道一』(大蔵出版)
 袴谷憲昭『仏教入門』(大蔵出版)
 その他、講義の中で随時紹介。

履修コード	000341
科目名	仏教漢文入門
担当者名	吉村 誠

講義の到達目標(ねらい) 著名な仏典や仏教に関わる中国の詩文を読みながら、仏教漢文訓読の基本をマスターします。一般的な漢文の句法を学ぶとともに、仏教漢文特有の表現に慣れ親しむことで、漢訳経典や漢字文化圏(中国・朝鮮・日本・ベトナムほか)の仏教文献を正確に読むための基礎力を養います。

講義の内容／授業スケジュール (前期) (1) 仏典とは何か、(2～7) 漢文の読み方、(8～13) 中国の詩文を読む、(14～15) まとめと復習
 (後期) (1) 大乘経典の世界、(2～7) 大乘経典を読む、(8～13) 高僧伝・禅語録等を読む、(14～15) まとめと復習

履修上の留意点 出席励行のこと。

成績評価の方法 平常点と授業中の小テストによる総合評価。

教科書／テキスト ①『仏教漢文入門』。購入方法は最初の授業で指示します。
 ②漢和辞典(『新字源』『漢辞海』『漢語林』のいずれか)を用意すること。電子辞書は不可。

参考書 授業中に随時紹介します。

履修コード	001401 001402
科目名	仏教語・禅語解説 仏教研究II
担当者名	奥野 光賢 程 正

講義の到達目標(ねらい) どんな分野であれ、研究は山登りに似ているように思われる。予備的知識のないまま、いきなり難しい事柄に飛びついて、さしたる成果は得られないであろう。新入生みなさんの多くは「仏教」や「禅」を学ぶと言っても、果たしてどのような方途によって学んでよいのか困惑しているのではあるまいか。この講義は、そうした新入生のみならず、みなさんにまず「仏教語」や「禅語」に慣れてもらい、これから本格的に「仏教」や「禅」を学ぶ土台を築いて欲しいとの願いから開講されるものである。講義は前期「禅語」、後期「仏教語」に分かれて、それぞれ代表的な仏教語・禅語の解説を行なう。その際、たんなる解説にとどまることなく、次年度以降みなさん自身が自分で工具書を利用して、仏教語や禅語の意味を調べられるように指導していくつもりである。

講義の内容／授業スケジュール すでに記したように授業は前期「禅語」（担当程正）、後期「仏教語」（担当奥野光賢）の二期に分かれて展開する。毎回、3～4語程度の重要な代表的な仏教語ないし禅語を取り上げ、解説していく。解説する言葉の選定にあたっては、単なる興味本位ではなく思想史や仏教史（禅宗史）の展開などにも留意しつつ、なるべく関連性をもたせ有機的な講義となるよう配慮するつもりである。

前期……禅語解説……(1)インド禅から中国禅宗へ、(2)禅語について、(3～15)禅語解説
後期……仏教語解説……(1)仏教語について、(2～15) 仏教語解説

履修上の留意点 必ずノートを用意すること。前後期いずれも3分の2以上の出席に満たないものは成績評価の対象にしないので留意すること。

成績評価の方法 前後期それぞれ1回ずつの試験を行ない、その平均点により通年評価とする。点数配分は期末テスト（70点）と出席などの平常点（30点）とする。但し、場合によって点数配分の割合を変更することもあり得る。

教科書／テキスト 初回の授業において説明する。「仏教語解説」は有料にてコピーを配布する。

参考書 授業において適宜指示する。「仏教語解説」については、中村元編『仏教語源散策』（東京書籍）を用意しておくことが望ましい。

履修コード	001001 001002
科目名	仏教語・禅語解説 禅学研究II
担当者名	程 正 奥野 光賢

講義の到達目標(ねらい) どんな分野であれ、研究は山登りに似ているように思われる。予備的知識のないまま、いきなり難しい事柄に飛びついて、さしたる成果は得られないであろう。新入生みなさんの多くは「仏教」や「禅」を学ぶと言っても、果たしてどのような方途によって学んでよいのか困惑しているのではあるまいか。この講義は、そうした新入生のみならず、みなさんにまず「仏教語」や「禅語」に慣れてもらい、これから本格的に「仏教」や「禅」を学ぶ土台を築いて欲しいとの願いから開講されるものである。講義は前期「仏教語」、後期「禅語」に分かれて、それぞれ代表的な仏教語・禅語の解説を行なう。その際、たんなる解説にとどまることなく、次年度以降みなさん自身が自分で工具書を利用して、仏教語や禅語の意味を調べられるように指導していくつもりである。

講義の内容／授業スケジュール すでに記したように授業は前期「仏教語」（担当奥野光賢）、後期「禅語」（担当程正）の二期に分かれて展開する。毎回、3～4語程度の重要な代表的な仏教語ないし禅語を取り上げ、解説していく。解説する言葉の選定にあたっては、単なる興味本位ではなく思想史や仏教史（禅宗史）の展開などにも留意しつつ、なるべく関連性をもたせ有機的な講義となるよう配慮するつもりである。

前期……仏教語解説……(1)仏教語について、(2～15) 仏教語解説
後期……禅語解説……(1)インド禅から中国禅宗へ、(2)禅語について、(3～15)禅語解説

履修上の留意点 必ずノートを用意すること。前後期いずれも3分の2以上の出席に満たないものは成績評価の対象にしないので留意すること。

成績評価の方法 前後期それぞれ1回ずつの試験を行ない、その平均点により通年評価とする。点数配分は期末テスト（70点）と出席などの平常点（30点）とする。但し、場合によって点数配分の割合を変更することもあり得る。

教科書／テキスト 初回の授業において説明する。

参考書 授業において適宜指示する。

履修コード	001301 001302
科目名	仏教思想概説 仏教研究I
担当者名	池田 魯参

講義の到達目標(ねらい) インド・中国・日本へと展開した仏教の坐法について考察し、道元禅師・瑩山禅師の坐禅論の成立背景を明らかにする。

講義の内容／授業スケジュール 1～6回『天台小止観』『調和五事』『摩訶止観』『禅定境』
7～9回宗密『円覚経道場修証儀』
10～14回宗暉『坐禅儀』
15～21回道元『普勸坐禅儀』『正法眼蔵』『坐禅儀』『坐禅箴』『三昧王三昧』巻
22～28回瑩山『三根坐禅説』『坐禅用心記』

準備学習 予め上記テキストを読んでおくこと。

履修上の留意点 順次テキストを読んでもらうので、予習をすること。

成績評価の方法 学期末試験を主に、授業中の訓読文の読解力、出席状況などを加味する。

教科書／テキスト 各最初の時間に資料を配布する。
『正法眼蔵』（岩波文庫）4巻、『天台小止観』（岩波文庫）、『摩訶止観』（岩波文庫）2巻。他はコピー配布。

参考書 池田魯参『詳解摩訶止観』（大蔵出版）3巻、同『摩訶止観研究序説』（大東出版）

履修コード	005001
科目名	仏教特講II
担当者名	山本 元隆

講義の到達目標(ねらい)	南山律宗の中興の祖・靈芝元照(1048-1116)の戒律思想を考察し、その特徴と中国仏教における戒律思想の展開について考える。また、現代に生きる私たちが戒律を学ぶ意義についても考えていきたい。
講義の内容／授業スケジュール	元照の戒律に関する著作集『芝園遺編』(統蔵経第59巻所収)を講読する。『芝園遺編』には「授大乘菩薩戒儀」「大小乘論」「戒体章」など元照独自の戒律思想を論じた資料が多く収録されている。本講義では(1)南山律宗の基本的思想や歴史的展開を概観した上で、(2)『芝園遺編』に収録された諸資料を講読し、中国仏教における戒律思想の展開について考察する予定である。
履修上の留意点	講義内容に関心を持ち、主体的に授業に参加してほしい。
成績評価の方法	平常点によって評価するが、場合によりレポートを提出してもらう。
教科書／テキスト	最初の授業において指示する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。

履修コード	005101
科目名	仏教特講III
担当者名	池田 道浩

講義の到達目標(ねらい)	チベット仏教ゲルク派のジャムヤンシェーパ(1648-1722)の著した『大学説』の唯心章を講読する。インド仏教瑜伽行派のテキストには極めて多くの難解な見解が述べられるが、瑣末で雑多な記述と、この上なく重要な見解が披瀝される個所とを峻別するのは困難な作業である。チベットの学説綱要書は、必ずしもインド仏教の実情を正確に叙述したものではないが、その視点は示唆に富んでおり、一見複雑な瑜伽行派の思想を正しく理解するためには不可欠の文献である。
講義の内容／授業スケジュール	使用するテキストについては初回に説明する。既に英訳も出版されているが、あまり便利なものではない。また、ツォンカバ(1357-1419)とチャンキャ(1717-1786)の著書は利用が容易であり、常に参照すべきである。
履修上の留意点	受講者はサンスクリット語とチベット語を既に履修した学生か、もしくは、今年度に履修し始める学生が望ましい。
成績評価の方法	平常点によって評価を行う。
参考書	講義中に随時紹介する。

履修コード	005201
科目名	仏教特講IV
担当者名	渡邊 幸江

講義の到達目標(ねらい)	この講座の目標は、身体観察から心の状態を知ることにある。取得課題は、第一に主要テキスト『小止観』を通じて漢文に慣れること。第二は中国医学の基礎知識から身体観察法を取得すること。第三は毎回の授業後半に実践する自律訓練法から、自己の変化に気づくことである。
講義の内容／授業スケジュール	第1回：イントロダクションとして授業内容の説明 第2回：テキスト『小止観』について 第3～5回：『小止観』「序」 第6～11回：病患境「病発相」 第12～16回：中国医学の基礎知識 第17～22回：病患境「治病法」 第23～27回：中国医学の臨床実践 第28～30回：自他の身体観察の実践。
準備学習	できれば漢文の予習、復習が望ましい。
履修上の留意点	身体観察に興味を持ち、積極的に授業に臨んでもらいたい。
成績評価の方法	出席、レポート、定期試験による総合評価とする予定である。
教科書／テキスト	資料はそのつど、コピーで配布する。
参考書	関口真大訳『現代語訳 天台小止観』大東出版社、1100円

履修コード	006201 006202
科目名	仏教美術
担当者名	村松 哲文

講義の到達目標(ねらい)	仏像の歴史について、信仰的な背景と照らし合わせながら概観する。本年度は、奈良と京都の寺院ごとに仏像を考察する。6世紀、我が国に伝来した仏教は瞬く間に日本に根付き、絢爛たる仏教文化を構築した。こうした中で、仏像の制作は時代を経るごとに発展していくが、様々な要因から仏像の表現は変化する。この変化の過程を各寺院で所蔵されている仏像を概観しながら、その特徴を把握していくことが本講義の目標である。古代寺院の代表である法隆寺の仏像は、中国や朝鮮半島の影響を大きく受けて制作されている、その後平安時代になると平等院に代表される仏像のように日本独自の表現が確立する。こうした仏像表現の相違点について、スライドやDVDなどを用いて講義する。また本講義では、仏像から制作者の心情に迫り、芸術という側面だけではなく、信仰という側面に留意して話を進める。なおインド・中国・朝鮮半島の仏教美術については「総合I(3) 仏教と芸術」で講義し、鎌倉時代以降の絵画については「禅美術」で講義する。
講義の内容／授業スケジュール	〔前期〕 仏像鑑賞の基礎(1～3)、法隆寺(4～8)、薬師寺(9～11)、東大寺(11～15) 〔後期〕 唐招提寺(16～18)、大安寺(19～21)、興福寺(22～24)、東寺(25～27)、浄瑠璃寺(28～30) 以上は予定であり、関連する他の仏像について適時解説する。
準備学習	都内近郊の博物館・美術館に行き、多くの仏像を鑑賞すること。
履修上の留意点	美術館・博物館・寺院に行き、多くの仏像を観察するように努めてもらいたい。仏教美術関連の展覧会には、必ず足を運ぶこと。
成績評価の方法	定期試験と出席率、レポートなどで総合評価する。
教科書／テキスト	プリントを配布する。
参考書	『かわいい、キレイ、カッコいい、たのしい仏像のみかた』(日本文芸社)、その他については講義中に紹介する。

履修コード	008901
科目名	仏教文献学
担当者名	堀川 貴司

講義の到達目標(ねらい) この講義は、日本に現存する仏教関係の典籍を独力で扱える知識・能力を身に付けることを最終的な目標としています。
前期では
* 古典籍の基本的な構造や書誌事項を理解し、記述することができる。
後期では
* 中国・朝鮮から将来されたものも含め、仏教関係の典籍について基本的な知識を持つ。
をそれぞれの目標として授業を進めます。できるだけ実物を用いて具体的に話をします。

講義の内容／授業スケジュール

前期
1-3. 導入—書誌学とは何か、具体的にどのような作業をするのか
4-7. 書物の構成とそれぞれの要素についての概略
8-9. 本文の形式や文字について
10. 刊記・奥書について
11. 読者・所蔵者による書入や蔵書印等について
12-13. 参考となる情報を探し、比較検討する
14. 紙その他の原材料について
15. まとめ

後期
1-4. 仏教經典の概要と中国・日本の写経について
5-9. 中国・日本の刊経について
10-12. 抄物（日本の禅僧による注釈書）について
13-14. 墨蹟（禅僧の筆跡）について
15. まとめ

準備学習 古典籍に触れたことのない学生がほとんどだと思いますので、毎回の授業内容をよく復習して、実際の調査に生かせるようにしてください。

履修上の留意点 実際の書誌調査の作業を行ってもらう予定なので、欠席しないようにしてください。

成績評価の方法 前期末・後期末の2度のレポートを各50パーセントの割合で評価します。

教科書／テキスト 堀川貴司『書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む』勉誠出版、1890円、ISBN 978-4-585-20001-7

参考書 授業中に紹介します。

その他 授業は講義が中心ですが、図書館や個人蔵の古典籍の実物を用いて各自書誌調査を行ってもらうつもりです。

履修コード	006301 006302
科目名	仏教民俗学
担当者名	佐藤 憲昭

講義の到達目標(ねらい) わが国で展開されている釈尊降誕会は、それ以前から存していた「春山入り」の行事と習合して、民衆のあいだに広く定着したと言われる。この例から知られるように、仏教がわが国に定着するに際しては、仏教と民俗とが習合している点に留意しておかなければならない。この講座では、仏教文化には教義仏教と民俗仏教との異なる二つのレベルがあり、生活場面においては両者が提携し、複合化しているという事実を踏まえ、民俗仏教の意味と役割について教義仏教との関連のもとに考えてみたい。

講義の内容／授業スケジュール

次のテーマのもとに具体的に考察する。
第1～2回 仏教と民俗、第3～4回 宗教文化の捉え方、第5～6回 宗教的エリートとマス、第7～8回 日本人の宗教的志向性、第9～10回 教義仏教と民俗仏教、第11～12回 宗教的職能者の特質、第13～14回 教義仏教と民俗仏教とを媒介する僧侶の特質、第15～16回 仏教とアニミズム、第17～18回 「仏」と「ホトケ」と「ほとけ」、第19～20回 葬祭、第21～22回 供養、第23～24回 祈祷、第25～26回 釈尊降誕会・涅槃会、第27～28回 盂蘭盆会・彼岸会、第29回 点眼式、第30回 総括。

履修上の留意点 出席をとるので、欠席をする場合、または欠席をした場合には、欠席届（形式は任意）を提出することが望ましい。

成績評価の方法 学年末の筆記試験で評価する。合格の基準は、講義内容を踏まえて、みずからの言葉でどのように論じているかという点にある。この科目は4年生のみレポートを提出してもらう予定である。それは次の通りである。【課題】仏教民俗学・宗教人類学に関する論文または書物を読み、その感想文を作成する。【字数】2000字。【提出先と時期】12月までの授業時に随時受けつける。【その他】ワープロ作成可。なお、追試験を実施する。

教科書／テキスト 佐々木宏幹『仏力-生活仏教のダイナミズム-』春秋社

参考書 授業中に適宜紹介する。

履修コード	003201 003202
科目名	仏典・禅籍解説 仏典講読IV
担当者名	池田 練太郎 松田 陽志

講義の到達目標(ねらい) この授業は、3・4年次における専門的な研究に先立って、仏教・禅の典籍に関する基本的な理解を身につけてもらうことを目的とするものである。
前期「中国・日本の禅籍」においては、中国（唐代までの初期禅宗）・日本（道元禅師の日本曹洞宗）に展開する禅宗の重要な典籍資料について取り上げ、その歴史的意義や思想的背景について解説する。また研究における資料のとらえ方や代表的な研究文献などについても随時紹介していく。
後期「仏教の典籍」では、前半はインドにおける原始仏教、部派仏教、大乘仏教の経・律・論に関わる主要な典籍について、後半は中国、日本において著された重要な典籍について、それぞれの内容、思想的意義、後代に与えた影響などについて解説する。
なお、前期は松田陽志が、後期は池田練太郎が担当する。

講義の内容／授業スケジュール 前期 中国・日本の禅籍
[中国の禅籍—初期禅宗文献—]
第1～3回：禅宗とダルマ 『洛陽伽藍記』 『統高僧伝』 『二入四行論』、第4～6回：北宗と南宗 『伝法宝記』 『楞伽師資記』 『菩提達磨南宗定是非論』、第7回：六祖慧能の禅 『六祖壇経』、第8～10回：馬祖禅と語録 『宝林伝』 『祖堂集』 『馬祖語録』 『臨濟録』 『百丈清規』
[日本の禅籍—道元禅師に関わる文献—]
第11回：『正法眼蔵随聞記』、第12回：『普勧坐禅儀』、第13回：『正法眼蔵』、第14回：試験、第15回：予備
後期 仏教の典籍
[インドの仏典]
第1回：原始経典の成立、第2～3回：阿含・ニカーヤの内容と組織、第4回：各部派所属の律蔵、第5回：説一切有部を中心としたアビダルマ論書、第6～7回：大乘仏教の経典（『般若経』 『法華経』 『華嚴経』 『涅槃経』 他）、第8～9回：中観派・瑜伽行派を中心とした大乘仏教の論書
[中国、日本の仏典]
第10～11回：中国で著された仏教の典籍、第12～13回：日本で著された仏教の典籍、第14回：試験、第15回：予備

履修上の留意点 特になし。
成績評価の方法 出席点と学期末に行なう筆記試験によって評価する。
教科書／テキスト 特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。
参考書 必要に応じて、授業において言及する。
その他 特になし。

履修コード	002801 002802
科目名	仏典・禅籍解説 禅籍講読IV
担当者名	松田 陽志 池田 練太郎

講義の到達目標(ねらい) この授業は、3・4年次における専門的な研究に先立って、仏教・禅の典籍に関する基本的な理解を身につけてもらうことを目的とするものである。
後期「仏教の典籍」では、前半はインドにおける原始仏教、部派仏教、大乘仏教の経・律・論に関わる主要な典籍について、後半は中国、日本において著された重要な典籍について、それぞれの内容、思想的意義、後代に与えた影響などについて解説する。
後期「中国・日本の禅籍」においては、中国（唐代までの初期禅宗）・日本（道元禅師の日本曹洞宗）に展開する禅宗の重要な典籍資料について取り上げ、その歴史的意義や思想的背景について解説する。また研究における資料のとらえ方や代表的な研究文献などについても随時紹介していく。
なお、前期は池田練太郎が、後期は松田陽志が担当する。

講義の内容／授業スケジュール 前期 仏教の典籍
[インドの仏典]
第1回：原始経典の成立、第2～3回：阿含・ニカーヤの内容と組織、第4回：各部派所属の律蔵、第5回：説一切有部を中心としたアビダルマ論書、第6～7回：大乘仏教の経典（『般若経』 『法華経』 『華嚴経』 『涅槃経』 他）、第8～9回：中観派・瑜伽行派を中心とした大乘仏教の論書
[中国、日本の仏典]
第10～11回：中国で著された仏教の典籍、第12～13回：日本で著された仏教の典籍、第14回：試験、第15回：予備
後期 中国・日本の禅籍
[中国の禅籍—初期禅宗文献—]
第1～3回：禅宗とダルマ 『洛陽伽藍記』 『統高僧伝』 『二入四行論』、第4～6回：北宗と南宗 『伝法宝記』 『楞伽師資記』 『菩提達磨南宗定是非論』、第7回：六祖慧能の禅 『六祖壇経』、第8～10回：馬祖禅と語録 『宝林伝』 『祖堂集』 『馬祖語録』 『臨濟録』 『百丈清規』
[日本の禅籍—道元禅師に関わる文献—]
第11回：『正法眼蔵随聞記』、第12回：『普勧坐禅儀』、第13回：『正法眼蔵』、第14回：試験、第15回：予備

履修上の留意点 特になし。
成績評価の方法 前期並びに後期：出席点と学期末に行なう筆記試験によって評価する。
教科書／テキスト 特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。
参考書 必要に応じて、授業において言及する。
その他 特になし。

履修コード	002901
科目名	仏典講読I
担当者名	藤井 淳

講義の到達目標(ねらい)	東アジアの仏教世界に多大な影響を与えた『法華経(法華経)』を諸種の釈尊・仏陀の伝記と並行しながら講読する。『法華経』および仏伝と諸大乘経典との関係にも言及したい。詳細な読解にも配慮するが現代語訳も用いて一年間で通読することを心がける。
講義の内容／授業スケジュール	(1～5) 文献解題、(6～29) 文献講読、(30) まとめ
履修上の留意点	講読とは学生自身にテキストを読んでもらうことを意味する。必ず長時間予習してくることを心がけられたい。履修者の人数・関心によって適宜、『法華経』と仏伝の読解時間の比重を変えることがある。
成績評価の方法	授業への参加姿勢および学期末の定期試験によって評価する。
教科書／テキスト	『法華経』(1)(2)(松涛 誠康、丹治 昭義、長尾 雅人訳、大乘仏典シリーズ、中公文庫) 各1680円 (1)は手元に置いておくこと。(2)も所持を推奨するが不可欠ではない。漢文資料はプリントで配布します。
参考書	横超慧日『法華経序説』(法蔵館) 現在購入は困難であるが、関心のあるものは図書館等で読んでおくこと。
その他	適宜、必要な資料コピーを配布するが、再発行はしないので気をつけられたい。全くの初心者から基礎的な理解のあるものまで歓迎したい。

履修コード	003001
科目名	仏典講読II
担当者名	奥野 光賢

講義の到達目標(ねらい)	三論学派(三論宗)を大成した嘉祥大師吉蔵撰『三論玄義』を講読する。『三論玄義』は大乗仏教の基本論書である『中論』『十二門論』『百論』によって書かれた三論学派の綱要書であるが、古来、宗派を超えた大乗仏教の概論書として読み継がれてきた。本書の講読を通じて三論学派の基本的教理の把握につとめたい。
講義の内容／授業スケジュール	開講から数回は序論として、三論の解題・研究史、著者である吉蔵について講義する。その後、講読に入る。『三論玄義』は大きく第一篇「通序大帰」(総論)と第二篇「別釈衆品」(各論)よりなるが、今年度は第二篇「別釈衆品」の途中から読み始める。 第4回～第6回……「諸部通別の義」 第7回～第9回……「衆論立名の不同」 第10回～第12回……「衆論の旨帰(根本趣旨)」 第13回～第15回……「四論の破申不同(否定と肯定)」 第16回～第18回……「別して三論を釈す」 第19回～第21回……「三論の通別」 第22回～第24回……「四論の用仮(教化の手段)不同」 第25回～第27回……「四論の対縁不同」 第28回～第30回……「三論の所破の縁」「中論の名題を釈す」
準備学習	中国仏教史に関する概説書の「三論学派(三論宗)」、「吉蔵」の項目を予め読んできて欲しい。
履修上の留意点	予習をしっかりとなし、授業に主体的に参加することを望む。なお、受講希望者は開講初日に必ず出席すること。受講者を確定した段階で講読テキストを配布する(有料)。
成績評価の方法	出席状況もいくぶんかは勘案するが、あくまで基本は学年末試験である。受講希望者はその点をしっかり認識して、毎回の授業に臨んで欲しい。
教科書／テキスト	受講者を確定した段階でコピーを配布する(有料)。上にも記したように履修希望者は必ず開講初日に出席すること。
参考書	授業中に適宜紹介する。

履修コード	003101
科目名	仏典講読III
担当者名	飯塚 大展

講義の到達目標(ねらい)	中世日本仏教の多様性を、特に鎌倉時代に生きた無住道暁の目を通して理解することを主眼とする。
講義の内容／授業スケジュール	概説(1)、無住の生涯(2)、『雑談集』「愚老ノ述懐」の読解(3～5)、『沙石集』概説(6,7)、同巻1の読解(8～30)
履修上の留意点	本講義専用のノートを準備すること。
成績評価の方法	三分の二以上の出席を前提とする。平常点(30点配分)と期末試験(70点)を以て評価する。
教科書／テキスト	教科書は用いない。適宜プリントを配布する。
参考書	参考書は第二回目の講義(概説)において紹介する。以下に主要なものを挙げる。 『沙石集』(岩波古典文学大系)『沙石集』(新編日本古典文学全集、小学館)『雑談集』(中世の文学、三弥井書店)

履修コード	028101
科目名	ラテン語
担当者名	上野 勝広

講義の到達目標(ねらい)	ラテン語の基礎文法を概説し、理解できるようにします。
講義の内容／ 授業スケジュール	下記のテキストを用いて、基礎文法の要点を順次説明してゆきます。必要に応じてテキストにない文例も補充し、各課末にあるラ文和訳の練習問題に取り組みます。 前期は序論から第12課まで、後期は第13課から第24課までを学習します。 前期(1) 導入、ラテン語とは (2~5) 文字と発音、動詞の直説法現在・未完了・未来、名詞の第1・2変格など (6~10) 動詞の直説法完了・過去完了・未来完了、名詞の第3変格など (11~15) 動詞の直説法現在・未完了・未来・過去完了・未来完了、名詞の第4・5変格、形容詞の比較法、など 後期(16~20) 命令法、各種の代名詞、副詞、など (21~25) 不定法、数詞、形式受動動詞、分詞、など (26~30) 接続法、動名詞、動形容詞、様々な従属文、など
履修上の留意点	練習問題については、毎回出席者に指名し和訳例を発表してもらいます。受身でなく、自ら学び取る姿勢をもって授業に臨みましょう。 1回でも欠席してしまうと追いつくのが容易ではありません。授業そのものに加え、自習の負担が大きい科目です。
成績評価の方法	年間2回(前期末・後期末)のテストの結果(80%)に平常点(20%)を加味して評価します。
教科書／テキスト	松本悦治『ラテン語入門』(駿河台出版社)1,500円
参考書	辞書と共に初回の授業で紹介します。